



Sun StorEdge™ 5210 NAS クイックリファレンスマニュアル

Sun Microsystems, Inc.
www.sun.com

Part No. 819-1757-10
2005 年 3 月, Revision A

コメントの送付: <http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

Copyright 2005 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) は、本書に記述されている技術に関する知的所有権を有しています。これら知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

本書およびそれに付随する製品は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社による事前の許可なく、本製品および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品のフォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権法により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

本製品は、株式会社モリサワからライセンス供与されたリュウミン L-KL (Ryumin-Light) および中ゴシック BBB (GothicBBB-Medium) のフォント・データを含んでいます。

本製品に含まれる HG 明朝 L と HG ゴシック B は、株式会社リコーがリョービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。平成明朝体 W3 は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会 文字フォント開発・普及センターからライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。また、HG 明朝 L と HG ゴシック B の補助漢字部分は、平成明朝体 W3 の補助漢字を使用しています。なお、フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun、Sun Microsystems、AnswerBook2、docs.sun.com、Sun StorEdge、Java は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems 社の商標もしくは登録商標です。サン・ロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。Mozilla は、米国およびその他の国における Netscape Communications Corporation の商標または登録商標です。Netscape および Netscape Navigator は、米国およびその他の国における Netscape Communications Corporation の商標または登録商標です。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

ATOK は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。ATOK8 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK8 にかかる著作権その他の権利は、すべて株式会社ジャストシステムに帰属します。ATOK Server/ATOK12 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK Server/ATOK12 にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPENLOOK および Sun™ Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザー・インタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

U.S. Government Rights—Commercial use. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本書には、技術的な誤りまたは誤植の可能性があります。また、本書に記載された情報には、定期的に変更が行われ、かかる変更は本書の最新版に反映されます。さらに、米国サンまたは日本サンは、本書に記載された製品またはプログラムを、予告なく改良または変更することがあります。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社による事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典:	Sun StorEdge 5210 NAS Quick Reference Manual
	Part No: 817-6659-11
	Revision A



目次

1. はじめに 1
 - このマニュアルについて 1
 - Sun StorEdge 5210 NAS の機能 1
 - ソフトウェアの要件および更新 3
2. Sun StorEdge 5210 NAS の電源の投入および切断 5
 - Sun StorEdge 5210 NAS の電源投入 5
 - ネットワーク設定およびシステム構成 7
 - Sun StorEdge 5210 NAS の停止 8
3. ネットワークの構成 11
 - サーバープロパティの構成方法 11
 - ネットワークアダプタの構成方法 12
 - エイリアス IP アドレスの概要 14
 - デフォルトゲートウェイアドレスの設定方法 14
 - DNS の設定方法 15
4. ファイルボリュームの操作 17
 - ファイルシステムの種類 17
 - ファイルボリュームおよびセグメントの作成方法 18
 - セグメントの配置方法 20

- ディレクトリツリー割り当ての構成 21
- ファイルのチェックポイントの作成方法 23
- 5. Windows の構成 33
 - Microsoft ネットワークの構成方法 33
 - WINS の設定方法 36
 - Windows の共有 37
 - 自動ホーム共有の構成方法 41
 - ADS での共有の公開方法 43
- 6. UNIX の構成 51
 - ネームサービスの構成方法 51
 - ホストの構成方法 58
 - NFS エクスポートの設定方法 60
 - ユーザーおよびグループの資格のマッピング 62
- 7. システムバックアップ 65
 - NDMP の設定方法 65
- 8. 監視および通知 67
 - SNMP の構成方法 67
 - 電子メール通知の設定方法 69
 - UPS 監視を使用可能にする方法 70
- 9. RAID の管理 73
 - LUN の構成 73
 - ホットスペアの構成 77
 - コントローラ情報の表示 79
- A. 障害追跡 81
 - 診断電子メールメッセージの送信 81

Sun の技術サポート 83

索引 85

図目次

図 2-1	拡張ユニットの背面パネル	6
図 2-2	Sun StorEdge 5210 NAS の AC 電源ケーブルの接続	6
図 2-3	電源スイッチおよび正面パネルの詳細	7
図 2-4	停止パネル	9
図 2-5	LCD パネルコントロール	9
図 3-1	「Set Server Name」パネル	11
図 3-2	「Configure Network Adapters」パネル	13
図 3-3	「Set Gateway Address」パネル	14
図 3-4	「Set Up DNS」パネル	15
図 4-1	「Create File Volumes」パネル	19
図 4-2	「Attach Segments」パネル	20
図 4-3	「Configure Directory Tree Quotas」パネル	21
図 4-4	「Add DTQ Setting」ダイアログボックス	22
図 4-5	「Schedule Checkpoints」パネル	24
図 4-6	「Add Checkpoint Schedule」ダイアログボックス	25
図 4-7	「Manage Checkpoints」パネル	27
図 4-8	「Create Checkpoint」ダイアログボックス	27
図 4-9	「Configure Shares」パネル	28
図 4-10	「Add Share」ダイアログボックス	29
図 4-11	「Configure Shares」パネル	30

図 4-12	Windows の「スタート」メニュー	30
図 4-13	「ファイル名を指定して実行」ダイアログボックス	31
図 5-1	「Configure Domains and Workgroups」パネル	34
図 5-2	「Set Up WINS」パネル	36
図 5-3	「Configure Shares」パネル	38
図 5-4	「Add Share」ダイアログボックス	39
図 5-5	「Configure Autohome」パネル	42
図 5-6	「Set Time and Date」パネル	44
図 5-7	「Configure Domains and Workgroups」パネル	45
図 5-8	「Configure Name Services」パネル	47
図 5-9	「Set Up DNS」パネル	48
図 5-10	「Add Share」ダイアログボックス	49
図 6-1	「Set Up NSSLDP」パネル	52
図 6-2	「Set Up NIS」パネル	53
図 6-3	「Configure Name Services」パネル	55
図 6-4	「Set Up NIS+」パネル	56
図 6-5	「Configure Name Services」パネル	57
図 6-6	「Set Up Hosts」パネル	59
図 6-7	「Add Host」ダイアログボックス	59
図 6-8	「Configure Exports」パネル	60
図 6-9	「Add NFS Export」ダイアログボックス	61
図 6-10	「Configure Mapping Policy」パネル	62
図 7-1	「Set Up NDMP」パネル	65
図 8-1	「Configure SNMP」パネル	68
図 8-2	「Set Up Email Notification」パネル	69
図 8-3	「Enable UPS Monitoring」パネル	71
図 9-1	「Manage RAID」パネルおよび拡張ユニット	74
図 9-2	「Add LUN」ダイアログボックス	75
図 9-3	「Remove LUN」ダイアログボックス	77
図 9-4	「Add Hot Spare」ダイアログボックス	78

図 9-5	「Remove Hot Spare」ダイアログボックス	79
図 9-6	「View Controller Information」パネル	80
図 A-1	「Diagnostic Email」ダイアログボックス	82

表目次

表 5-1	共有のパスの例	37
表 5-2	アクセス権への umask の適用例	41
表 9-1	「Add LUN」ダイアログボックスのドライブの状態イメージ	75

第1章

はじめに

このマニュアルについて

このマニュアルは、Sun StorEdge™ 5210 NAS ソフトウェアのさまざまな機能の使用方法を把握するためのクイックリファレンスです。使用するモニターに表示される画面は、このマニュアルに示された画面とは異なる場合があります。ソフトウェアの機能の詳細は、マニュアル CD に収録されている『Sun StorEdge 5210 NAS ソフトウェアインストール・設定・ユーザーマニュアル』を参照してください。

Sun StorEdge 5210 NAS の機能

注 – 最新のサポート情報については、ご購入先にお問い合わせください。

サポートされるファイルアクセスプロトコル

- Microsoft Networks (CIFS/SMB)
- UNIX® (NFS)、V2 および V3
- ファイル転送プロトコル (FTP)

サポートされるネットワークセキュリティー/プロトコル

次のものがサポートされています。

- Windows ドメインコントローラ
- ネットワークログオン (Netlogon) クライアント
- Windows ドメイン
- MMD (Multiple Master Domains)
- ファイルおよびディレクトリの CIFS セキュリティー記述子 (Security Descriptor: SD)
- ファイルおよびディレクトリの随意アクセス制御リスト (Discretionary Access Control List: DACL)
- NIS
- NIS+
- NTFS ストリーム
- Unicode
- Windows Active Directory サービス (ADS)
- Windows 動的 DNS
- Windows 互換 Kerberos (v5) セキュリティー
- Windows 互換 Lightweight
- Microsoft 対応 LDAP
- NFS の LDAP 認証

サポートされるクライアント

- Microsoft Windows NT 4.0/2000/XP/2003
- Solaris™ 2.6、Solaris 7、Solaris 8、Solaris 9、および Solaris 9x86 オペレーティングシステム
- IBM AIX 5.1
- HP HP-UX 11i
- Red Hat Linux Enterprise Edition 2.1
- SUSE Linux Server 9

ネットワーク接続

- 自動検知 10/100/1000 Base-TX、デュアル RJ-45 ネットワークコネクタ
- ファイバ/銅ケーブル Gigabit Ethernet (オプション)

IP アドレスの自動割り当て

- IP アドレスの自動割り当てでの DHCP および ARP のサポート

ハードウェア RAID サブシステム

- 複数のファイルシステムオプション
- ハードウェア RAID 5 (パリティを含むディスクのストライプ化) を使用した高度なファイル保護

データ管理

- Sun StorEdge ファイルチェックポイント機能 (破損または誤って削除したデータを簡単なファイルコピー操作で復元できる機能)
- ディレクトリツリー割り当て
- ユーザーおよびグループの割り当て

設定および構成

- SNMP MIB
- Web ベースのユーザーインターフェース (システム構成および管理用)
- コマンド行インターフェース (FTP 設定用、および保守技術者用。マニュアル CD に収録されている『Sun StorEdge 5210 NAS Sun StorEdge 5210 NAS ソフトウェア インストール・設定・ユーザーマニュアル』を参照)

クライアントデータのバックアップ

- NDMP
- ネットワークバックアップ
- BakBone NetVault 7 (BakBone によるサポート)
- Solaris バックアップソフトウェア対応 (VERITAS NetBackup、Sun StorEdge Enterprise Backup Software など)

ソフトウェアの要件および更新

Sun StorEdge 5210 NAS システムには、Web Administrator ソフトウェアが標準でインストールされています。Sun StorEdge 5210 NAS の管理用にほかのソフトウェアをインストールする必要はありません。

Web Administrator の要件

Web Administrator 管理インタフェースを使用するには、次のソフトウェアが必要です。

- Windows 98/NT/2000/XP/2003、Sun Solaris 5.7 オペレーティングシステム、または Red Hat Linux
- Internet Explorer 5.5 以上 (Windows 98/NT/2000/XP を使用するシステム)

または

- Netscape™ ソフトウェア 4.77 以上 (Windows 98/NT/2000/XP/2003 および Sun の Solaris オペレーティングシステムを使用するシステム)。Netscape 6.0 および 6.01 はサポートされていません。
- Mozilla™ ブラウザ
- Java Plug-In 1.3.1 以上を組み込んだ Java™ テクノロジ対応ブラウザ

注 – 最新の Java Plug-In をダウンロードするには、<http://java.com> にアクセスしてください。

第2章

Sun StorEdge 5210 NAS の電源の投入および切断

Sun StorEdge 5210 NAS の電源投入



注意 – 装置の電源は、常に次の順序で入れてください。

1. 拡張ユニット
 2. Sun StorEdge 5210 NAS Filer
-

ネットワーク接続がセキュリティー保護されていることを確認したら、次の手順に従って Sun StorEdge 5210 NAS の電源を入れます。拡張ユニットがない場合は、手順 5 に進んでください。

1. 『Sun StorEdge 5210 NAS の設定』ポスターおよび『Sun StorEdge 5210 NAS および拡張ユニットの接続』ポスターに従って、Sun StorEdge 5210 NAS と拡張ユニットの間のすべてのケーブルが適切に接続されていることを確認します。

2. 2本のAC電源ケーブルを各拡張ユニットの背面に接続します。

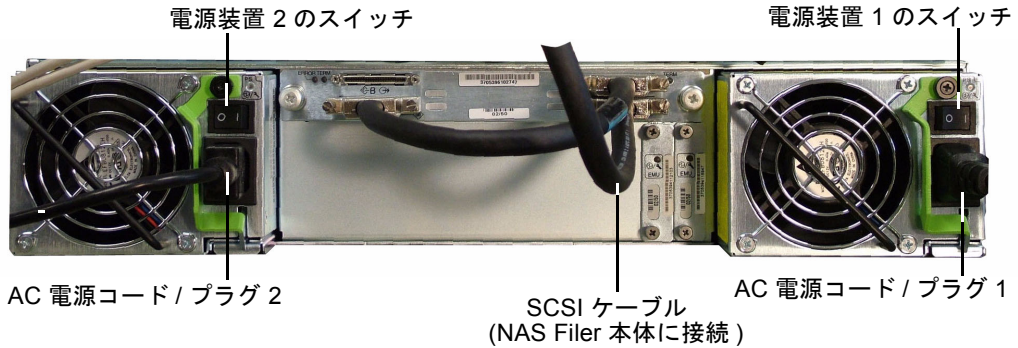


図 2-1 拡張ユニットの背面パネル

3. 電源ケーブルのもう一方の端を AC 電源に接続します。

4. 各拡張ユニットの 2 台の電源装置のスイッチをオンにします。

5. AC 電源ケーブルの一方の端を Sun StorEdge 5210 NAS に接続します (図 2-2 を参照)。



図 2-2 Sun StorEdge 5210 NAS の AC 電源ケーブルの接続

注 - 2 台の拡張ユニットを接続するには、NAS サーバーに RAID カードが 2 枚取り付けられている必要があります。

6. もう 1 本のケーブルも同じように接続します。

7. 両方の電源ケーブルを AC 電源に接続します。



注意 - 両方の電源ケーブルを接続してから、電源スイッチを入れてください。

8. 正面カバーを開き、正面パネルの電源ボタン (図 2-3) を押します。

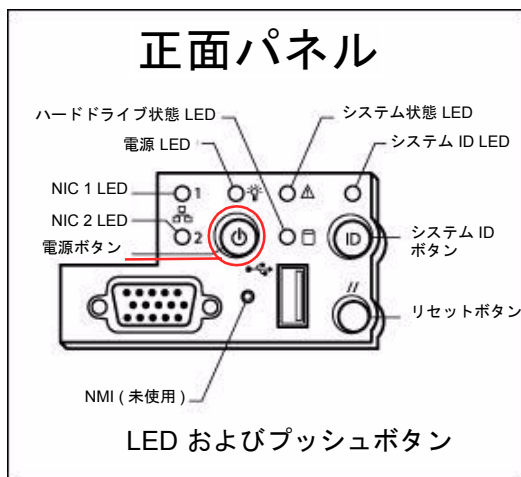


図 2-3 電源スイッチおよび正面パネルの詳細

ネットワーク設定およびシステム構成

ネットワークの設定およびシステムの構成については、マニュアル CD に収録されている『Sun StorEdge 5210 NAS ソフトウェアインストール・設定・ユーザーマニュアル』の第 1 章「はじめに」を参照してください。

システムで DHCP がサポートされている場合は、システムの電源をはじめて入れたときに、自動的に IP アドレスが設定されます。

注 – システムの構成に使用するため、IP アドレスを書き留めておいてください。

DHCP がサポートされていない場合のネットワークの設定

ネットワークで DHCP がサポートされていない場合、手動で IP アドレスを設定する必要があります。手動で IP アドレスを設定するには、NAS Filer の LCD パネルコントロールで選択ボタンを一度押してから「Set Static IP」を選択し、必要な情報を選択または指定します。その後、設定を保存します。

システムの構成

NAS システムを構成するには、Java 対応ブラウザでネットワークに接続された別のシステムを使用します。

1. ネットワーク接続 LED が緑色に点灯していることを確認してから、ブラウザウィンドウに NAS システムの IP アドレスを次の形式で入力します。

http://123.111.78.99

2. 「Apply」をクリックしてログインし、表示される手順に従ってシステム構成を行います。

注 – 表示されたログイン画面をブックマークに設定するか、お気に入りに追加しておく、と、次回のログインに備えて IP アドレスを記憶しておく必要がなくなります。

Sun StorEdge 5210 NAS の停止

Sun StorEdge 5210 NAS を停止するには、Web Administrator の GUI または LCD パネルを使用します。



注意 – データの破損を防止するため、常に適切な停止手順に従ってください。電源スイッチを切ったり電源コードを引き抜いたりして、Sun StorEdge 5210 NAS ファイルサーバーを停止しないでください。

Web Administrator を使用した停止

Web Administrator を使用して、Sun StorEdge 5210 NAS を停止できます。

停止するには、次の手順に従います。

1. ネットワークに接続されたブラウザから、Web Administrator にログインします。

2. 「System Operations」 > 「Shut Down the Server」 をクリックして、停止パネルを開きます。

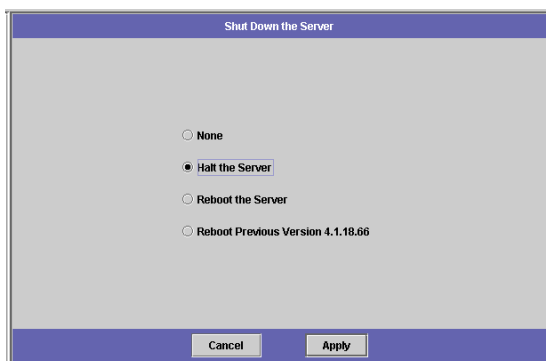


図 2-4 停止パネル

3. ラジオボタンをクリックして停止オプションを選択します。デフォルトでは「None」が選択されています。
 - None
 - Halt the Server
 - Reboot the Server
 - Reboot Previous Version x.xx (Sun StorEdge 5210 NAS システムの OS が更新されている場合にのみ使用可能なオプション)
4. 「Apply」 をクリックします。

LCD パネルを使用した停止

装置正面の LCD パネルを使用して、Sun StorEdge 5210 NAS ファイルサーバーを停止することもできます。



図 2-5 LCD パネルコントロール


停止するには、次の手順に従います。

1. LCD パネルの選択ボタンを押して、メニューにアクセスします。




CPU: % [----> Menu]

2. LCD パネルにオプション A および B が表示されます。下向き矢印を押して「B. Shutdown Server」を選択し、選択ボタンを押します。




A. Network Config
B. Shutdown Server

3. 選択ボタンを押して「A. Power Off」オプションを選択します。




A. Power Off
B. Reboot

4. 下向き矢印を押して「No」を「Yes」に変更します。



Are you sure?
No



Are you sure?
Yes

5. 選択ボタンを押して停止を確定します。サーバーが停止します。

第3章

ネットワークの構成

サーバープロパティの構成方法

サーバー名の設定

ネットワーク上で表示される Sun StorEdge 5210 NAS サーバー名を設定するには、次の手順に従います。

1. Web Administrator のナビゲーションパネルで、「Network Configuration」 > 「Set Server Name」を選択します。



Server Name:	<input type="text" value="Company"/>
Company Name:	<input type="text" value="Your Company Name"/>
Contact Name:	<input type="text" value="John Doe"/>
Contact Phone #:	<input type="text" value="(213) 456-7899"/>

Cancel Apply

図 3-1 「Set Server Name」 パネル

2. 「Server Name」ボックスに Sun StorEdge 5210 NAS サーバー名を入力します。サーバー名には、英数字 (a ~ z、A ~ Z、0 ~ 9)、「-」(ダッシュ)、「_」(下線)、および「.」(ピリオド)を使用できます。

注 - サーバー名には、数字または記号ではなく、英字 (a ~ z または A ~ Z) から始まる文字列を指定する必要があります。たとえば、「Astro2」や「Saturn_05」は適切なサーバー名ですが、「5Saturn」や「_Astro2」は使用できません。

3. 企業の連絡先情報を入力します。
4. 「Apply」をクリックして、変更内容を保存します。

ネットワークアダプタの構成方法

Sun StorEdge 5210 NAS の背面パネルで、NIC ポートの位置を確認します。どの NIC ポートを構成するのかが確認しておく必要があります。詳細は、マニュアル CD に収録されている『Sun StorEdge 5210 NAS ハードウェア設置・設定・ユーザーマニュアル』を参照してください。

注 - ネットワークアダプタの設定に関するサポートが必要な場合は、ネットワーク管理者に問い合わせてください。

ネットワークアダプタを構成するには、次の手順に従います。

1. ナビゲーションパネルで、「Network Configuration」 > 「Configure TCP/IP」 > 「Configure Network Adapters」を選択します。

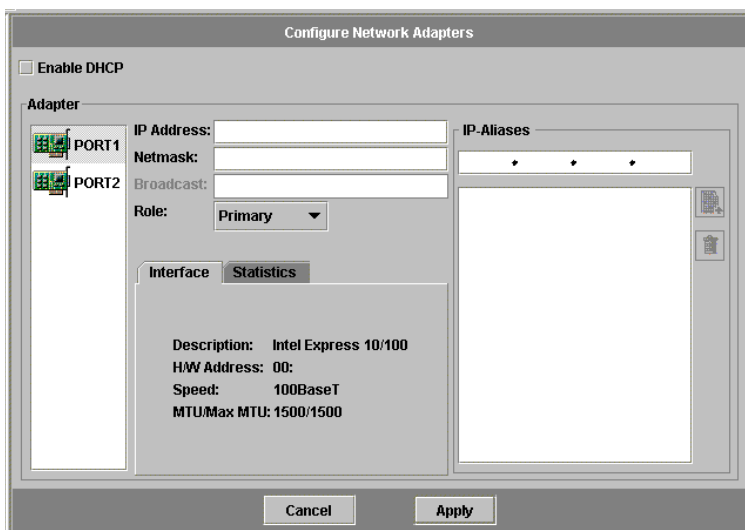


図 3-2 「Configure Network Adapters」 パネル

2. ネットワークで IP アドレスの割り当てに DHCP サーバーを使用している場合に、これを使用可能にするには、「Enable DHCP」チェックボックスを選択します。デフォルトではすでに選択されています。DHCP を使用可能にすると、Sun StorEdge 5210 NAS サーバーは DHCP サーバーから IP アドレスを取得します。

静的 IP アドレス、サブネットマスク、またはゲートウェイアドレスを手動で入力する場合、このチェックボックスの選択を解除します。DHCP を使用可能にしない場合、集約されたポートの構成ポートのネットマスクは使用不可のままです。



3. 「Adapter」リストから、構成するポートを選択します。
4. 選択した NIC ポートの IP アドレスを入力します。
5. 選択した NIC ポートのネットマスクを入力します。

Sun StorEdge 5210 NAS では、IP アドレスおよびネットマスクを入力すると、読み取り専用の「Broadcast」フィールドが自動的に設定されます。ブロードキャストアドレスは、ブロードキャストメッセージをサブネットに送信する際に使用される IP アドレスです。

6. 「Adapter」リスト内のすべてのポートに対して、手順 3 ~ 5 を繰り返します。
7. 「Apply」をクリックして、変更内容を保存します。

エイリアス IP アドレスの概要

Sun StorEdge 5210 NAS システムでは、各 NIC ポートのプライマリ IP アドレスに、最大 9 個のエイリアス IP アドレスを追加できます。そのため、1 つのポートを持つネットワークインタフェースカード 1 枚につき、最大 10 個の IP アドレスが使用できます。

選択した NIC にエイリアス IP アドレスを追加するには、「IP-Aliases」フィールドにそのアドレスを入力します。  ボタンをクリックしてアドレスを「IP-Aliases」リストに追加します。リストからエイリアスを削除するには、該当するエイリアスを選択して  ボタンをクリックします。変更内容は、「Apply」をクリックすると保存されます。

デフォルトゲートウェイアドレスの設定方法

デフォルトゲートウェイアドレスは、ほかのサブネットへの接続にデフォルトで使用される、ローカルサブネット上のゲートウェイまたはルーターの IP アドレスです。

Sun StorEdge 5210 NAS サーバーのデフォルトゲートウェイアドレスを指定するには、次の手順に従います。

1. ナビゲーションパネルで、「Network Configuration」 > 「Configure TCP/IP」 > 「Set Gateway Address」を選択します。



図 3-3 「Set Gateway Address」 パネル

2. 「Gateway」テキストボックスにゲートウェイアドレスを入力します。
3. 「Apply」をクリックして、変更内容を保存します。

DNS の設定方法

ドメインネームシステム (DNS) は、ドメイン名を Sun StorEdge 5210 NAS システムの IP アドレスに解決する際に使用されます。

注 - 動的 DNS を使用する場合、DNS データベースを手動で更新する必要はありません。動的 DNS を使用しない場合は、このメニューに値を入力する前に、Sun StorEdge 5210 NAS サーバーのホスト名および IP アドレスを DNS データベースに追加してください。詳細は、DNS のマニュアルを参照してください。

DNS を設定するには、次の手順に従います。

1. ナビゲーションパネルで、「Network Configuration」>「Configure TCP/IP」>「Set Up DNS」を選択します。

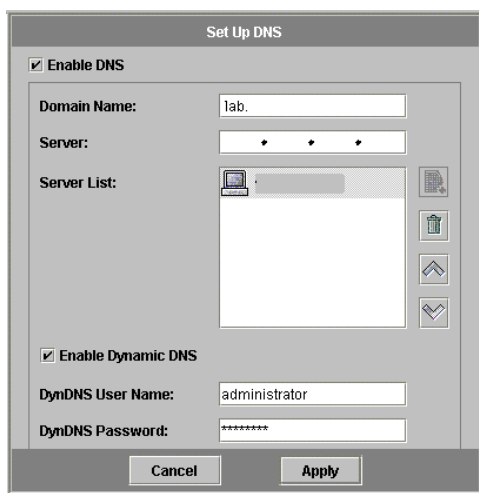






図 3-4 「Set Up DNS」パネル

2. 「Enable DNS」チェックボックスを選択して、DNS を使用可能にします。DNS を使用可能にしたあと、この画面の各 DNS フィールドに必要な情報を入力する必要があります。
3. 「Domain Name」ボックスに、DNS サーバーのドメイン名を入力します。

4. ネットワークで使用可能にする DNS サーバーの IP アドレスを入力し、 ボタンをクリックしてこのサーバーを「Server List」に追加します。

追加する各 DNS サーバーに対してこの手順を繰り返します。このリストには、DNS サーバーを 2 台まで追加できます。
5. ドメインの名前解決の際に、サーバーリストのいちばん上にある DNS サーバーが最初に照会されます。リスト内の DNS サーバーの順序を変更するには、移動するサーバーをクリックし、 ボタンまたは  ボタンをクリックします。リストからサーバーを削除するには、サーバーの IP アドレスを選択し、 をクリックします。
6. Sun StorEdge 5210 NAS が自動的に DNS の名前スペースに追加されるようにするには、「Enable Dynamic DNS」チェックボックスを選択します。また、「Windows Configuration」から「Set Up ADS」パネルを表示して、Kerberos レルムおよび KDC サーバーを構成する必要があります。DNS サーバーでセキュリティー保護されていない動的更新が許可されている場合に、このチェックボックスを選択して動的 DNS を使用可能にすると、セキュリティー保護されていない動的更新が自動的に実行されます。
7. セキュリティー保護された動的 DNS 更新を使用可能にするには、次の情報を入力します。この情報は、セキュリティー保護されていない更新には不要です。
 - a. 「DynDNS User Name」フィールドに、動的 DNS 更新を検証できる Windows 2000 ユーザーの名前を入力します。このユーザーのワークステーションは、ADS タブ画面で指定した ADS ドメインおよび Kerberos レルム内に存在する必要があります。

このフィールドにドメイン管理者名を入力しても ADS の更新が行われない場合は、ドメインコントローラにおいてドメイン管理者パスワードを変更する必要があります。パスワードの変更は、管理者ユーザーのみが行う必要があります。また、同じパスワードを再使用することもできます。詳細は、Microsoft のサポートサービスの Web サイトで「文書番号 Q248808」を参照してください。
 - b. 「DynDNS Password」フィールドに、DynDNS ユーザーのパスワードを入力します。このフィールドを変更する場合、パスワード全体を削除してから新しいパスワードを入力します。
8. 「Apply」をクリックして、変更内容を保存します。

第4章

ファイルボリュームの操作

ファイルシステムのご概念

ここでは、この章で使用する一般的な用語について簡単に説明します。

RAID

Redundant Array of Independent Disks の略称です。RAID システムでは、アレイコントローラを介してデータを複数のドライブに分散できます。これによって、データの安全性が大幅に向上し、回復の可能性も高くなります。Sun StorEdge 5210 NAS では RAID 5 アレイをサポートしています。RAID および RAID の種類の詳細は、RAID コントローラのマニュアルを参照してください。

LUN

論理ユニット番号 (Logical Unit Number) の略称です。LUN は論理デバイスであるため、ソフトウェアで定義されます。物理デバイスに準拠しているとはかぎりません。ネットワーク接続記憶装置 (Sun StorEdge 5210 NAS) の場合、記憶領域を効率的に使用できるように構成および分割する必要がありますが、LUN によって記憶領域のブロックを定義できます。

パーティション

パーティションは LUN 上のセクションです。各 LUN には、最大 4 つのパーティションを含めることができます。各パーティションには、領域を割り当てることも、空にしておくこともできます。LUN の作成時、使用可能なすべての領域は最初のパーティションに配置され、それ以外の 3 つのパーティションは空になります。各パーティションには、ファイルボリュームを 1 つのみ設定できます。

ファイルボリューム

ファイルボリュームは使用可能な記憶容量を構成するもので、パーティションから作成されます。ファイルボリュームは、ユーザーが情報を格納する領域です。パーティション内の使用可能なすべての領域がボリュームに割り当てられていない場合、残りの領域は自動的に次のパーティションに割り当てられます。LUN 上に 4 つのボリュームが作成されると、残りの領域にはアクセスできなくなります。

セグメント

セグメントは、既存のファイルボリュームに配置してサイズを増やすために使用できるパーティションの一部です。既存のファイルボリュームにいつでも配置できます。ファイルボリュームの空き容量が少なくなった場合、セグメントを配置してデータを格納する領域を追加します。詳細は、20 ページの「セグメントの配置方法」を参照してください。

ファイルボリュームおよびセグメントの作成方法

新しいファイルボリュームのサイズは 255G バイトに制限されます。255G バイトを超えるファイルボリュームを作成する場合は、1 つの一次ボリュームと、LUN あたり最大 63 個のセグメントを作成します。作成したセグメントを一次ボリュームに配置して、サイズを増やします。セグメントの配置方法については、20 ページの「セグメントの配置方法」を参照してください。

ファイルボリュームまたはセグメントを作成するには、次の手順に従います。

1. ナビゲーションパネルで、「File Volume Operations」 > 「Create File Volumes」 を選択します。

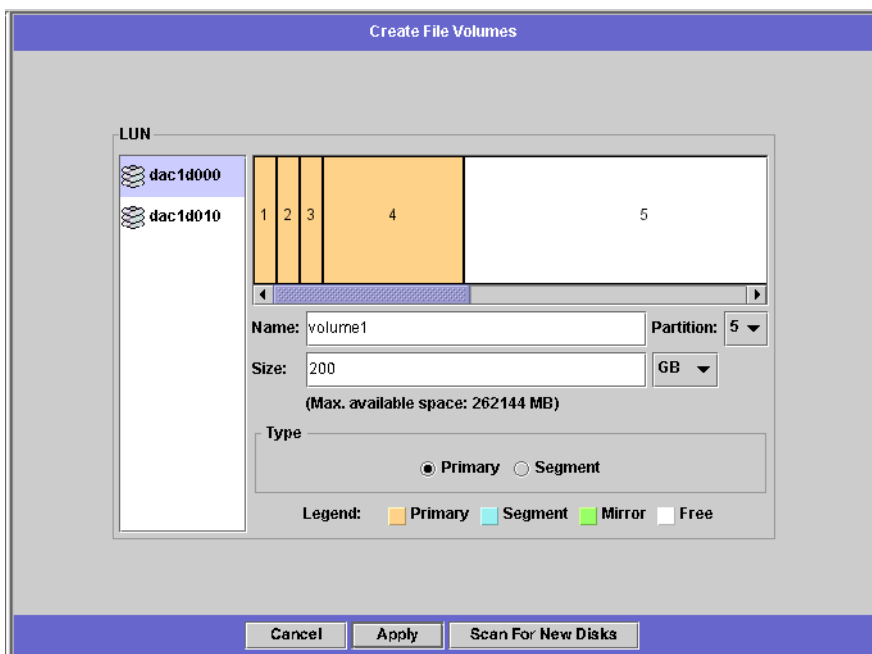


図 4-1 「Create File Volumes」 パネル

2. 「LUN」ボックスで、一次ファイルボリュームを作成する LUN をクリックします。
「Partition」ドロップダウンリスト内のファイルボリュームのパーティション番号は、ファイルボリュームの作成時に自動的に増分します。
3. 「Name」フィールドに、新しいボリューム名またはセグメント名を入力します。
有効な文字は、英数字 (a ~ z, A ~ Z, 0 ~ 9) および「_」(下線) です。英字 (a ~ z, A ~ Z) から始まる 12 文字以内の名前を指定する必要があります。
4. ファイルボリュームの種類 (「Primary」または「Segment」) を選択します。
5. ドロップダウンリストをクリックして、ファイルボリュームのサイズの単位を選択します。単位は「MB」(M バイト) または「GB」(G バイト) のいずれかです。
6. 「Size」に、ファイルボリュームのサイズを整数で入力します。使用可能な総容量が、このフィールドの直下に表示されています。
7. 「Apply」をクリックして新しいファイルボリュームまたはセグメントを作成します。

セグメントの配置方法

セグメントを既存の一次ボリュームに追加して、ボリュームの合計サイズを増やすことができます。セグメントは、同じ LUN からでも異なる LUN からでも配置できます。ボリュームに追加したセグメントは削除できません。

セグメントをボリュームに配置するには、事前にセグメントを作成しておく必要があります。セグメントの作成方法については、18 ページの「ファイルボリュームおよびセグメントの作成方法」を参照してください。

セグメントを配置するには、次の手順に従います。

1. ナビゲーションパネルで、「File Volume Operations」 > 「Attach Segments」を選択します。

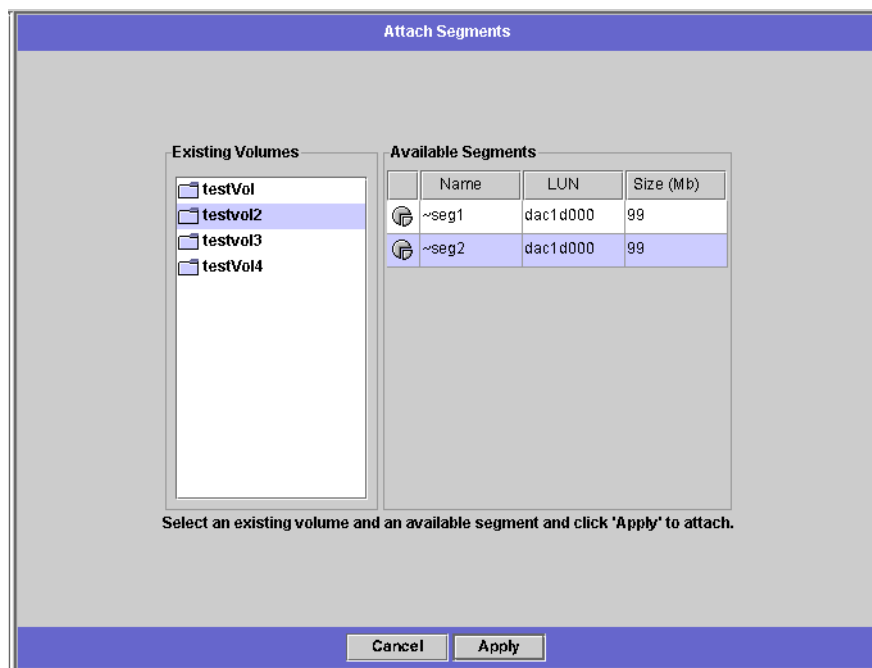


図 4-2 「Attach Segments」 パネル

2. 「Existing Volumes」列から、拡張する一次ボリュームを選択します。
3. 「Available Segments」列から、配置するセグメントを選択します。
4. 「Apply」をクリックしてセグメントをボリュームに配置します。

ディレクトリツリー割り当ての構成

ディレクトリツリー割り当ては、ディレクトリで使用可能なディスク容量か、そのディレクトリに書き込み可能なファイルの数を決定します。このパネルで作成したディレクトリにのみ割り当てを構成できます。以前に作成した既存のディレクトリに割り当てを構成することはできません。

ディレクトリツリー割り当てを追加するには、次の手順に従います。

1. ナビゲーションパネルで、「File Volume Operations」 > 「Manage Quotas」 > 「Configure Directory Tree Quotas」を選択します。

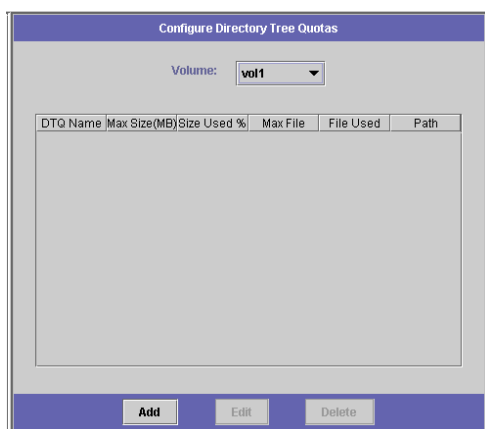


図 4-3 「Configure Directory Tree Quotas」パネル

2. ディレクトリツリー割り当てを構成するファイルボリュームを選択します。

3. 「Add」をクリックして、「Add DTQ Setting」ダイアログボックスを表示します。

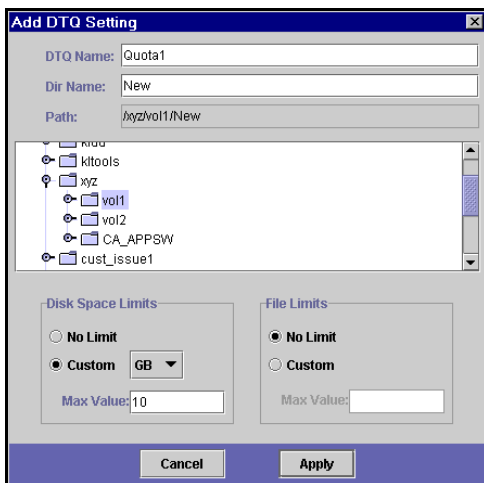




図 4-4 「Add DTQ Setting」ダイアログボックス

4. 「DTQ Name」フィールドに、このディレクトリツリー割り当てを識別する名前を入力します。
5. 「Dir Name」フィールドに、新しいディレクトリの名前を入力します。このフィールドで作成したディレクトリにのみディレクトリ割り当てを構成できます。
「Path」フィールドの下のボックスに、「Configure Directory Tree Quotas」パネルで選択したファイルボリュームのディレクトリツリー構造が表示されます。
 - a. フォルダの中身を表示するには、フォルダの横の  記号をクリックして  の向きにするか、フォルダのアイコンをダブルクリックします。
 - b. この割り当てを設定する新しいディレクトリを含めるディレクトリを選択します。
 - c. 「Path」フィールドにディレクトリのフルパスが表示されたら、次のフィールドに移動してディスク容量およびファイル数の制限値を設定します。
6. 「Disk Space Limits」セクションで、「No Limit」または「Custom」のいずれかを選択して、ディレクトリのディスク容量の制限値を選択します。「No Limit」を選択すると、ディレクトリのディスク容量を無制限にすることができます。ディスク容量の最大値を指定するには、「Custom」を選択します。割り当てを「MB」または「GB」のどちらの単位で報告するかを選択して、「Max Value」フィールドにディスク容量の制限値を入力します。「Custom」の値に 0 (ゼロ) を設定すると、「No Limit」を選択した場合と同様に処理されます。

7. 「File Limits」フィールドで、「No Limit」または「Custom」のいずれかを選択して、このディレクトリに書き込み可能なファイルの最大数を選択します。「No Limit」を選択すると、このディレクトリに書き込み可能なファイル数を無制限にすることができます。ファイルの最大数を指定するには、「Custom」を選択します。そのあと、「Max Value」フィールドにファイル数の制限値を入力します。
8. 「Apply」をクリックして、割り当てを追加します。
9. 「Apply」をクリックして、変更内容を保存します。

ファイルのチェックポイントの作成方法

チェックポイントの概要

「チェックポイント」は、一次ファイルボリュームの読み取り専用の仮想コピーです。ファイルボリュームに対する読み取り/書き込み操作は引き続き行われますが、チェックポイントの作成時に存在したデータをすべて使用することができます。チェックポイントを使用して、誤って変更または削除したファイルを取得したり、バックアップの一貫性を確保したりします。

チェックポイントは、ファイルボリュームの仮想コピーです。オンラインバックアップではありません。ファイルボリュームが失われると、チェックポイントもすべて失われます。

注 – ユーザーが多くのファイルを作成または変更すると、古いファイルの複数のチェックポイントセットを保持するために、大量の記憶領域がシステムで必要となる場合があります。より多くのチェックポイントを作成すると、システムの性能に対する影響も大きくなります。

チェックポイントのスケジュール設定

「Schedule Checkpoints」パネルには現在のチェックポイントスケジュールが表示され、スケジュール設定されたチェックポイントを追加、編集、および削除できます。この画面には、スケジュール設定された各チェックポイントのファイルボリューム名、説明、設定日時、およびチェックポイントが保持される期間が表示されます。チェックポイントの保持期間は、チェックポイントが自動的に削除されるまでの日数と時間で表示されます。

チェックポイントスケジュールへのエントリの追加

チェックポイントを表に追加すると、要求した日時の新しいチェックポイントがシステムで自動的に設定されます。スケジュール設定できるチェックポイント数に上限はありません。ただし、チェックポイントには、大量の領域およびシステムメモリーが必要です。より多くのチェックポイントを作成すると、システムの性能に対する影響も大きくなります。

スケジュールの行を追加するには、次の手順に従います。

1. チェックポイントをスケジュール設定するには、まず、ファイルボリュームのチェックポイントを使用可能にします。チェックポイントが使用可能になっていない場合は、次の手順に従って使用可能にします。
 - a. ナビゲーションパネルで、「File Volume Operations」 > 「Edit Properties」を選択します。
 - b. 「Volume Name」ドロップダウンリストから、チェックポイントを使用可能にするボリュームを選択します。
 - c. 「Enable Checkpoints」ボックスにチェックマーク () が表示されていることを確認します。このボックスはデフォルトで選択されています。選択されていない場合は、ボックスを選択して「Apply」をクリックします。
2. ナビゲーションパネルで、「File Volume Operations」 > 「Configure Checkpoints」 > 「Schedule Checkpoints」を選択します。

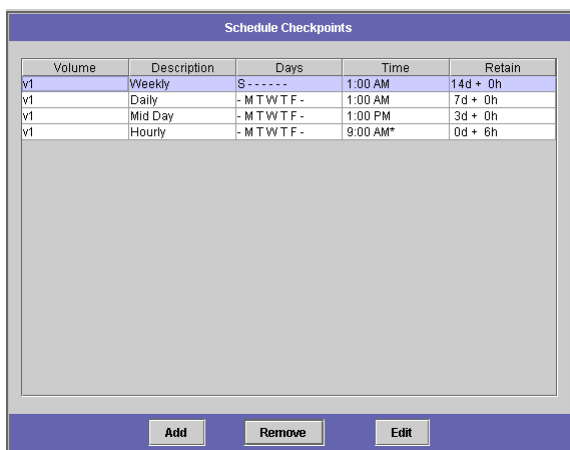


図 4-5 「Schedule Checkpoints」パネル

3. スケジュールの行を追加するには、「Add」をクリックします。

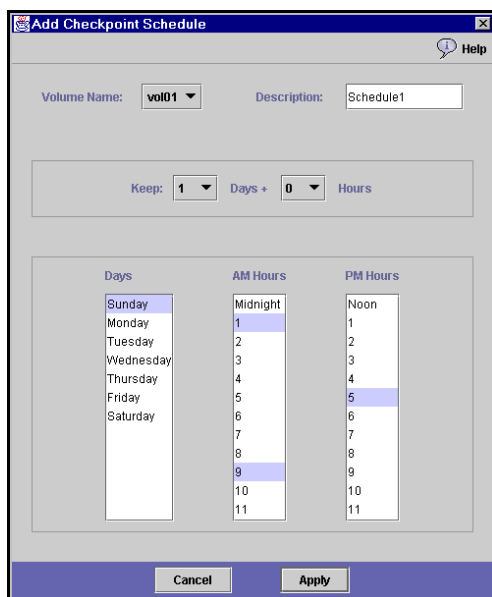


図 4-6 「Add Checkpoint Schedule」ダイアログボックス

4. チェックポイントをスケジュール設定するファイルボリュームを選択します。
5. 「Description」ボックスにチェックポイントの説明を入力します。これは必須フィールドです。たとえば、「毎週」、「毎日」など、チェックポイントの間隔に関する情報を入力します。
6. 「Days」、「AM Hours」、および「PM Hours」ボックスから、チェックポイントを作成する日時を選択します。
 - a. 「Days」リストから、チェックポイントを作成する曜日を選択します。このリストから複数の曜日を選択するには、Ctrl キーを押しながら追加の曜日をマウスでクリックします。
 - b. 「AM Hours」リストから、チェックポイントを作成する時間 (午前) を選択します。このリストから複数の項目を選択するには、Ctrl キーを押しながら追加の項目をマウスでクリックします。
 - c. 「PM Hours」リストから、チェックポイントを作成する時間 (午後または夜) を選択します。このリストから複数の項目を選択するには、Ctrl キーを押しながら追加の項目をマウスでクリックします。
7. 「Apply」をクリックして、変更内容を保存します。

チェックポイントの即時作成

チェックポイントのスケジュールを設定するか、即時にチェックポイントを作成するかを選択できます。定期的なチェックポイントスケジュールの設定方法については、23 ページの「チェックポイントのスケジュール設定」を参照してください。

「Manage Checkpoints」パネルで、チェックポイントを即時に作成したり、既存のチェックポイントの名前の変更および削除を実行したりすることができます。事前に設定した日時に作成されるようにスケジュール設定されたチェックポイントとは異なり、いつでもチェックポイントを即時に作成できます。

チェックポイントを即時に作成する方法

計画した時間ではなく即時にチェックポイントが発生するように構成できます。

新しいチェックポイントを手動で作成するには、次の手順に従います。

1. チェックポイントを作成するには、ファイルボリュームのチェックポイントを使用可能にする必要があります。チェックポイントが使用可能になっていない場合は、次の手順に従って使用可能にします。
 - a. ナビゲーションパネルで、「File Volume Operations」 > 「Edit Properties」を選択します。
 - b. 「Volume Name」ドロップダウンリストから、チェックポイントを使用可能にするボリュームを選択します。
 - c. 「Enable Checkpoints」ボックスにチェックマーク () が表示されていることを確認します。このボックスはデフォルトで選択されています。選択されていない場合は、ボックスを選択して「Apply」をクリックします。

- ナビゲーションパネルで、「File Volume Operations」 > 「Configure Checkpoints」 > 「Manage Checkpoints」を選択します。

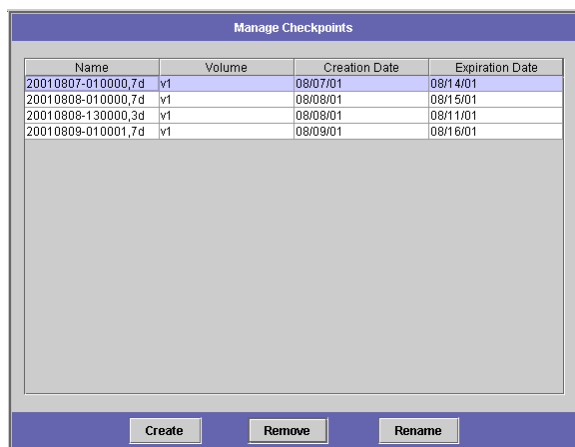


図 4-7 「Manage Checkpoints」パネル

- 新しいチェックポイントを作成するには、「Create」をクリックします。

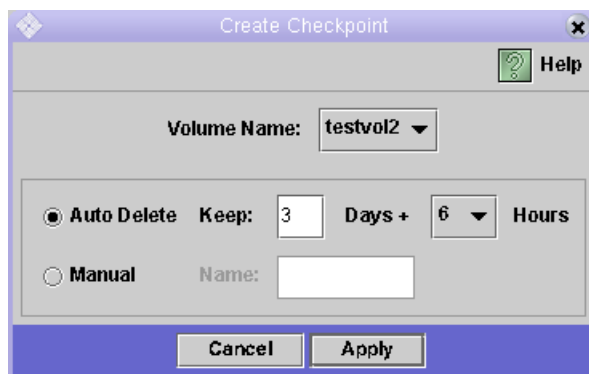


図 4-8 「Create Checkpoint」ダイアログボックス

- 「Volume Name」ドロップダウンリストから、チェックポイントを作成するボリュームを選択します。
- 次のいずれかのチェックポイントオプションを選択します。
 - Auto Delete:** 「Keep Days」および「Keep Hours」で指定した期間を経過すると、Sun StorEdge 5210 NAS によってチェックポイントが自動的に削除されます。このオプションでは、チェックポイントの名前がシステムによって自動的に割り当てられます。このオプションを選択する場合、チェックポイントが保持される日数および時間を選択します。

- **Manual:** チェックポイントに「Backup」以外の名前を指定する場合は、このオプションを選択します。「Name」フィールドに任意の名前を入力します。特定の期間が経過しても、このチェックポイントは自動的に削除されません。

6. 「Apply」をクリックしてチェックポイントを作成します。

チェックポイントを共有する方法

1. ナビゲーションパネルで、「Windows Configuration」 > 「Configure Shares」を選択します。

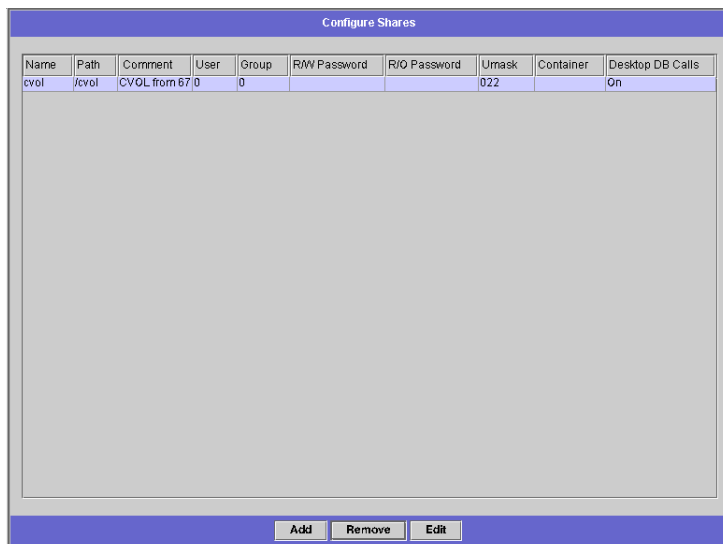


図 4-9 「Configure Shares」 パネル

2. 「Configure Shares」 パネルで「Add」をクリックします。

3. 「Share Name」ボックスに、チェックポイントの新しい共有名を入力します。共有名は、ネットワーク上のほかのコンピュータがネットワークを介してチェックポイントにアクセスするために使用されます。

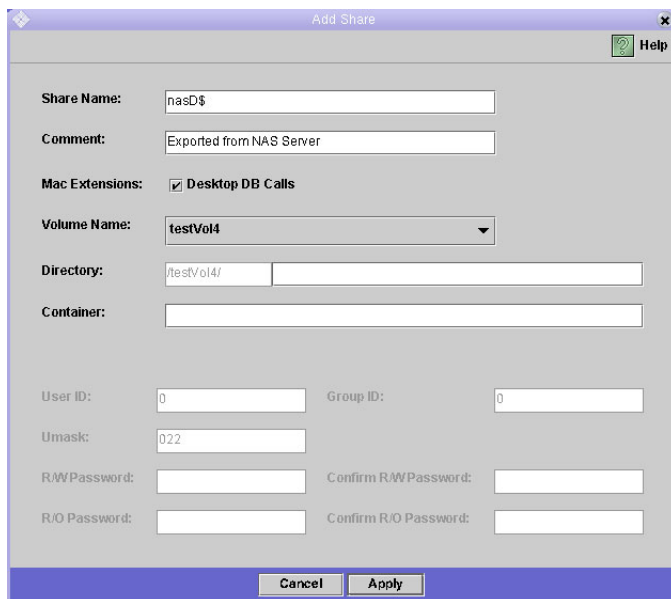


図 4-10 「Add Share」ダイアログボックス

4. 「Mac Extensions」オプションは、デフォルトで選択されています。
5. 「Volume Name」ドロップダウンリストをクリックし、リストから対象のチェックポイントボリュームを選択します。チェックポイントボリュームには、.chkpnt 拡張子が付いています。
6. 「Directory」フィールドは、空白のままかまいません。
7. ADS が使用可能で構成済みの場合は、「Container」テキストボックスに ADS コンテキストを入力します。

8. 「Apply」 をクリックします。

「Configure Shares」 パネルに、新しいチェックポイントが共有チェックポイントとして表示されていることを確認します。

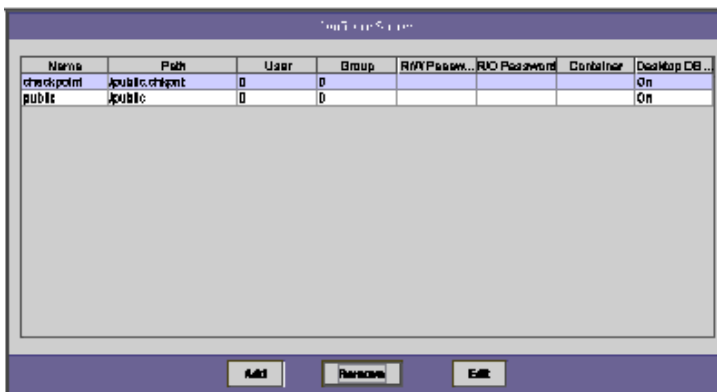


図 4-11 「Configure Shares」 パネル

チェックポイントにアクセスする方法

1. ネットワーク上のワークステーションを使用して、Windows の「スタート」メニューをクリックし、「ファイル名を指定して実行」を選択します。

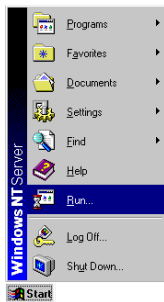


図 4-12 Windows の「スタート」メニュー

2. 「ファイル名を指定して実行」ダイアログボックスで、Sun StorEdge 5210 NAS サーバーの IP アドレスおよびチェックポイントの共有名を入力します。

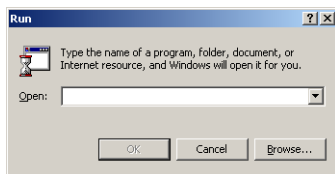


図 4-13 「ファイル名を指定して実行」ダイアログボックス

たとえば、「¥¥xxx.xxx.xxx.xxx¥sharename」と入力します。

3. 「OK」をクリックします。

第5章

Windows の構成

Microsoft ネットワークの構成方法

ドメイン、ワークグループ、または Active Directory サービス (ADS) の構成は、Windows の機能です。実行中のネットワークが UNIX のみで構成されている場合、Windows ドメインや Windows ワークグループを構成する必要はありません。

Windows ワークグループ、NT ドメインのセキュリティー、または ADS を使用可能にするには、「Configure Domains and Workgroups」パネルを使用します。デフォルトでは、Sun StorEdge 5210 NAS は Windows ワークグループモードで「workgroup」というワークグループ名で構成されます。

Windows のセキュリティーを構成するには、次の手順に従います。

1. ナビゲーションパネルで、「Windows Configuration」 > 「Configure Domains and Workgroups」を選択します。

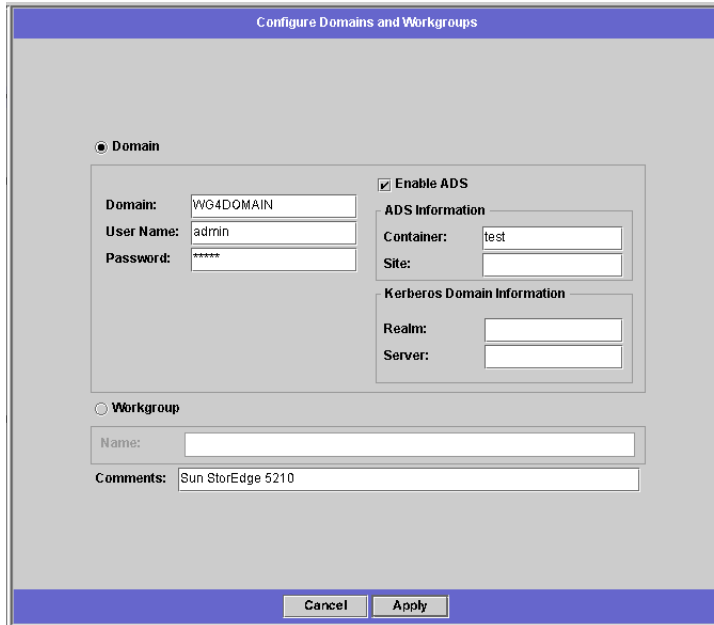


図 5-1 「Configure Domains and Workgroups」 パネル

2. Windows ドメインのセキュリティーを使用可能にするには、「Domain」オプションボタンを選択します。このオプションを選択すると、指定したドメイン上にこのサーバー用のアカウントが作成されます。指定したドメインにサーバーを追加する権限を持つユーザーアカウントを指定する必要があります。

次の項目を入力します。

- 「Domain」フィールドにドメイン名を入力します。この名前は、NetBIOS の 15 文字の制限に準拠している必要があります。
- 「User Name」フィールドおよび「Password」フィールドに、ドメイン管理者ユーザーの名前およびパスワードをそれぞれ入力します。ユーザー名は 16 文字以内で指定できます。

3. Windows ワークグループのセキュリティーを使用可能にするには、「Workgroup」オプションボタンをクリックします。

次の項目を入力します。

- 「Name」フィールドにワークグループ名を入力します。この名前は、NetBIOS の 15 文字の制限に準拠している必要があります。

- 任意で、Sun StorEdge 5210 NAS サーバーの説明を「Comments」フィールドに入力します。
4. ADS を使用可能にするには、「Enable ADS」チェックボックスをクリックします。ADS の詳細は、43 ページの「ADS での共有の公開方法」を参照してください。

注 – ADS を使用可能にする前に、Sun StorEdge 5210 NAS の時刻と ADS Windows 2000 ドメインコントローラの時刻の誤差が 5 分以内であることを確認してください。Sun StorEdge 5210 NAS の時刻を確認するには、ナビゲーションパネルから「System Operations」>「Set Time and Date」を選択します。

次の項目を入力します。

- 「Domain」フィールドに、ADS が動作している Windows 2000 ドメインを入力します。Sun StorEdge 5210 NAS がこのドメインに属している必要があります。
- 「User Name」フィールドに、管理権限を持つ Windows 2000 ユーザーの名前を入力します。このユーザーは、ドメイン管理者か、ドメイン管理者グループのメンバーである必要があります。ADS クライアントでは、このユーザーによるセキュリティ保護された ADS の更新が検証されます。

注 – このフィールドにドメイン管理者名を入力しても ADS の更新が行われない場合は、ドメインコントローラにおいてドメイン管理者パスワードを変更する必要があります。パスワードの変更は、管理者ユーザーのみが行う必要があります。また、同じパスワードを再使用することもできます。詳細は、Microsoft のサポートサービスの Web サイトで「文書番号 Q248808」を参照してください。

- 「Password」フィールドに、Windows 2000 管理者ユーザーのパスワードを入力します。
- 「Container」フィールドに、LDAP (Lightweight Directory Access Protocol) の DN (識別名) 記法で Windows 2000 管理者ユーザーの ADS のパスを入力します。

注 – パスには、ドメイン名を含めないでください。

- 「Site」フィールドにローカル ADS サイト名を入力します。
 - 「Kerberos Realm Info」セクションに、ADS の識別に使用されるレルム名を入力します。通常、これは ADS ドメインまたは DNS ドメインです。「Apply」をクリックすると、入力した値がすべて大文字に変換されます。
 - 「Server」フィールドに、Kerberos KDC (Key Distribution Center) サーバーのホスト名を入力します。通常、これは ADS ドメインのメインドメインコントローラのホスト名です。Sun StorEdge 5210 NAS が DNS を介して KDC サーバーを検索できる場合は、このフィールドは空白のままかまいません。
5. 「Apply」をクリックして設定を保存します。セキュリティモードをワークグループと NT ドメイン間で切り替えると、「Apply」をクリックしたときにサーバーが自動的に再起動されます。

WINS の設定方法

WINS サーバーでは、ネットワーク上のコンピュータがほかのコンピュータをすばやく効率的に検索できるように、NetBIOS 名が IP アドレスに解決されます。

WINS サーバーを追加するには、次の手順に従います。

1. ナビゲーションパネルで「Windows Configuration」>「Set Up WINS」を選択します。

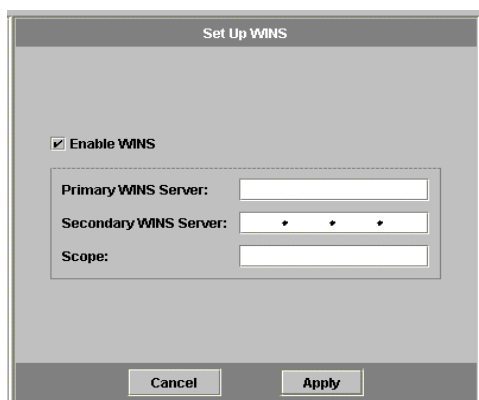


図 5-2 「Set Up WINS」パネル

2. WINS を使用可能にするには、「Enable WINS」チェックボックスをクリックします。これによって、Sun StorEdge 5210 NAS サーバーが WINS クライアントに設定されます。
3. プライマリ WINS サーバーおよびセカンダリ WINS サーバーの IP アドレスを、所定のフィールド（「Primary WINS Server」および「Secondary WINS Server」）に入力します。プライマリ WINS サーバーは、名前解決で最初に照会されるサーバーです。プライマリ WINS サーバーが応答しない場合、セカンダリ WINS サーバーが照会されます。
4. 「Scope」フィールドに NetBIOS の適用範囲識別子を入力します（任意）。適用範囲を定義すると、このコンピュータと適用範囲外にあるシステムとの通信ができなくなります。適用範囲は、大規模な Windows ワークグループを小規模なグループに分割する場合に役立ちます。適用範囲を使用する場合、NetBIOS またはドメインの命名規則に従って、適用範囲 ID を 16 文字以内で設定する必要があります。
5. 「Apply」をクリックして、変更内容を保存します。

Windows の共有

共有の概要

共有リソース (共有) とは、ネットワーク上にいる Windows クライアントがアクセス可能なサーバー上のローカルリソースです。共有は通常、NAS サーバー上では、ファイルボリューム、またはボリューム内のサブツリーとして存在します。各共有には名前が割り当てられ、ネットワーク上でこの名前によって識別されます。ネットワーク上のクライアントに対しては、共有はサーバー上の完全なボリュームとして表示され、共有のルートのすぐ上のローカルディレクトリのパスは表示されません。

注 – 共有およびその他のディレクトリは、独立したエンティティです。共有を削除しても、配下のディレクトリには影響しません。

共有は、ネットワークファイルサーバー上のホームディレクトリにネットワークアクセス権を付与するために使用します。各ユーザーは、ファイルボリューム内のホームディレクトリに割り当てられます。共有を作成すると、自身のホームディレクトリをクライアントワークステーションのネットワークドライブとして割り当てることができます。たとえば、**vol1** というボリュームに、**home** という名前のホームディレクトリ、および **bob** と **sally** というユーザーのサブディレクトリを含めることができます。共有の定義は、次のとおりです。

表 5-1 共有のパスの例

共有の名前	ディレクトリのパス
bob	/vol1/home/bob
sally	/vol1/home/sally

各 Windows ユーザーに対してホームディレクトリの共有を手動で定義および保持することが難しい場合、自動ホーム機能を使用できます。自動ホーム共有は、ユーザーがシステムにログインすると作成され、ログアウトすると削除される、一時的な共有です。

静的共有は、ユーザーがサーバーに接続しているかどうかに関係なく定義されている永続的なリソースです。自動ホーム共有は、ユーザーがシステムにログインすると作成され、ログアウトすると削除される、一時的な共有です。詳細は、41 ページの「自動ホーム共有の概要」を参照してください。

共有の構成

「Windows Configuration」フォルダの「Configure Shares」パネルの上部の表には、Sun StorEdge 5210 NAS のすべての既存の SMB 共有に関する情報が表示されます。この情報には、共有の名前および共有化されたディレクトリのほかに、Windows ワークグループのみに関する情報 (ユーザーおよびグループの情報、読み取り/書き込みパスワード、および読み取り専用パスワード) が含まれます。

注 – ボリュームを作成したら、まずボリューム全体の共有を作成する必要があります。そのあと、ボリュームにアクセスして、ディレクトリを作成できます。ボリュームにディレクトリが存在する場合は、各ディレクトリに個別の共有を作成できます。

共有の作成

共有を作成する前に、ファイルボリュームを作成する必要があります。

新しい SMB 共有を追加するには、次の手順に従います。

1. ナビゲーションパネルで、「Windows Configuration」 > 「Configure Shares」を選択します。

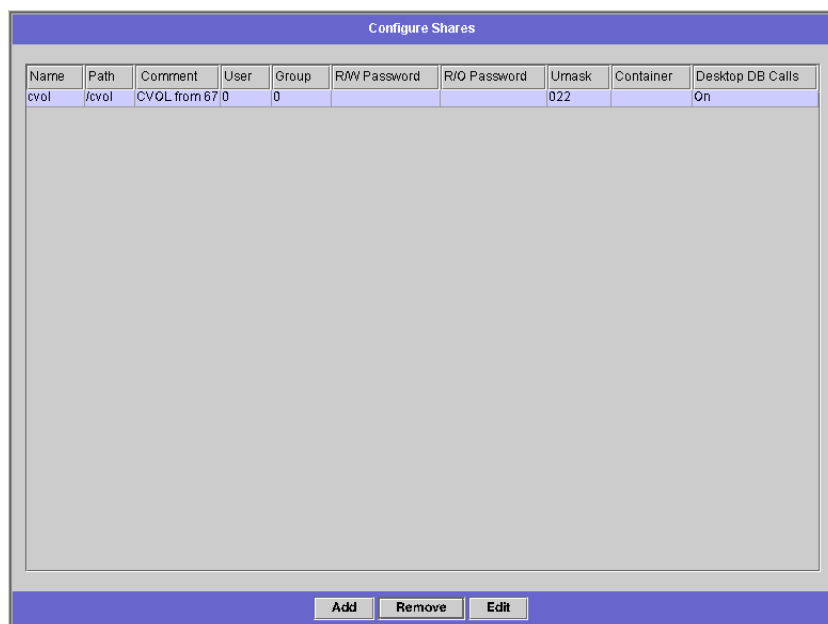


図 5-3 「Configure Shares」 パネル

2. 「Add」をクリックして、「Add Share」ダイアログボックスを表示します。

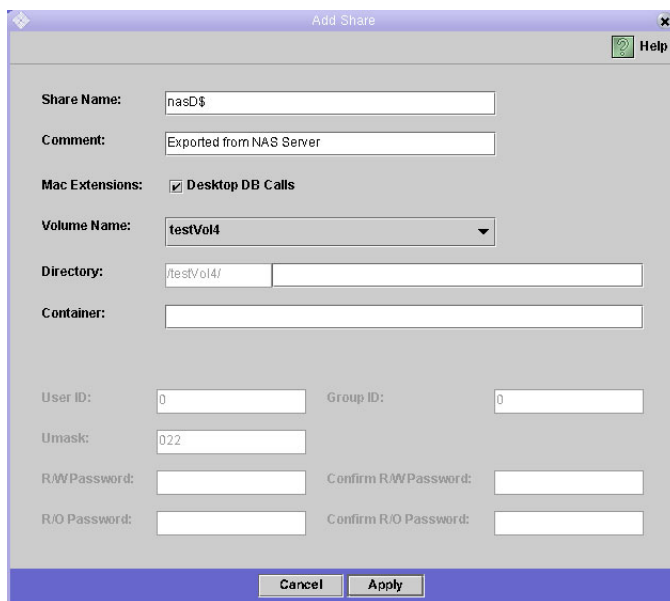


図 5-4 「Add Share」ダイアログボックス

3. 「Share Name」フィールドに、追加する共有の名前を入力します。これは、ネットワーク上でユーザーが確認できる名前です。この名前は 15 文字以内で入力する必要があります。次の文字は無効です。
= | : ; \ " ? < > * /
4. 任意で、共有について説明するコメントを追加します。
5. 「Mac Extensions」セクションで「Desktop DB Calls」チェックボックスを選択すると、Sun StorEdge 5210 NAS から Macintosh デスクトップデータベースにアクセスして情報を設定できます。これによって、Macintosh クライアントのファイルへのアクセスが高速化し、Macintosh 以外のクライアントによる Sun StorEdge 5210 NAS 上の Macintosh ファイルへのアクセスが可能になります。
6. 「Volume Name」ドロップダウンリストに表示された選択可能なボリュームのリストから、共有するボリュームを選択します。
7. 「Directory」フィールドに既存のディレクトリを入力します。このフィールドではディレクトリを作成できません。ディレクトリの名前は大文字と小文字が区別されません。

8. 任意で、「Container」フィールドに、共有を公開する ADS コンテナを指定します。「Set Up ADS」パネルで Sun StorEdge 5210 NAS の ADS が使用可能になっている場合のみ、このフィールドを使用できます。共有の cn (共通名) フォルダまたは ou (組織単位) フォルダの名前をパスとして入力します。cn フォルダは、ルートフォルダ内のデフォルトのフォルダです。そのほかのコンテナはすべて ou フォルダです。たとえば、共有が「accounting」という親フォルダ内の「shares」フォルダに存在する場合、次のように入力します。

ou=shares,ou=accounting

注 - パスには、ドメイン名を含めないでください。

9. 「User ID」、「Group ID」、および「Password」フィールドは、Sun StorEdge 5210 NAS 上で、NT ドメインモードではなく Windows ワークグループモードを使用可能にしている場合のみ使用できます。Windows のセキュリティーモデルを使用可能にする方法については、33 ページの「Microsoft ネットワークの構成方法」を参照してください。

Windows ワークグループは、共有レベルセキュリティーを使用します。この画面に表示されるユーザー ID (UID)、グループ ID (GID)、およびパスワードの各フィールドは、Windows ワークグループのユーザーが Sun StorEdge 5210 NAS ファイルの所有およびアクセスを行うための唯一のセキュリティー手段となります。つまり、ディレクトリに対する権限は、ユーザーではなく、共有の定義によって判断されます。Sun StorEdge 5210 NAS は、クライアントが認証を実行しないことを前提として、共有接続が要求されるたびに、パスワードを使用したアクセス権の確認を明示的に求めます。

同一のディレクトリに対して UID、GID、およびパスワードが異なる複数の共有を作成できます。その後、各ユーザーに対して特定の共有のパスワードを発行できます。割り当てを使用して、ファイルボリュームの容量またはファイルの数について個々のユーザーおよびグループに対する制限値を管理することもできます。割り当ての詳細は、『Sun StorEdge 5210 NAS ソフトウェアインストール・設定・ユーザーマニュアル』を参照してください。

- a. User ID および Group ID: この共有を使用して特定のディレクトリにアクセスするユーザーの UID および GID を入力します。このフィールドのデフォルト値は 0 (ゼロ) です。これは、UNIX のスーパーユーザーの値です。ただし、この値を割り当てる場合には注意が必要です。Windows ワークグループモードでは、このフィールドに 0 を入力すると、共有内のすべてのファイルおよびディレクトリに対するセキュリティーがすべて使用不可になります。
- b. R/W Password: この共有に指定したディレクトリに対する読み取り/書き込みアクセス権のある Windows ワークグループのユーザーのパスワードを入力します。
- c. Confirm R/W Password: 確認のために、読み取り/書き込みパスワードを再入力します。

- d. R/O Password: 共有に指定したディレクトリに対する読み取り専用アクセス権のある Windows ワークグループのユーザーのパスワードを入力します。
- e. Confirm R/O Password: 確認のために、読み取り専用パスワードを再入力します。
10. この共有にファイル生成マスクを適用する場合、「Umask」フィールドにマスクを入力します。umask は、共有モードで作成されるファイルおよびディレクトリのセキュリティポリシーを定義します。これによって、ファイルの作成時に使用不可になるアクセス権ビットが指定されます。

umask は 8 進数で定義されます。8 進数は 3 つのビットで構成されるため、UNIX ファイルのアクセス権の表記に簡単にマッピングできます。umask は、DOS 読み取り専用属性を除いて、標準の UNIX 規則を使用して適用されます。ファイルの作成時に DOS 読み取り専用属性を設定している場合、umask の適用後にすべての書き込みビットがファイルのアクセス権から削除されます。

次の表に、DOS 読み取り専用属性の影響を含む、アクセス権への umask の適用例を示します。

表 5-2 アクセス権への umask の適用例

umask	新規ディレクトリのアクセス権		新規ファイルのアクセス権	
	DOS 読み取り/書き込み	DOS 読み取り専用	DOS 読み取り/書き込み	DOS 読み取り専用
000	777 (rwxrwxrwx)	555 (r-xr-xr-x)	666 (rw-rw-rw)	444 (r--r--r--)
777	000 (-----)	000 (-----)	000 (-----)	000 (-----)
022	755 (rwxr-xr-x)	555 (r-xr-xr-x)	644 (rw-r--r--)	444 (r--r--r--)
002	775 (rwxrwxr-x)	555 (r-xr-xr-x)	664 (rw-rw-r--)	444 (r--r--r--)

11. 「Apply」をクリックして、変更内容を保存します。

自動ホーム共有の構成方法

自動ホーム共有の概要

SMB/CIFS 自動ホーム共有機能を使用すると、システムにアクセスする各 Windows ユーザーに対してホームディレクトリの共有を定義および保持するための管理作業が不要になります。ユーザーがログインするとシステムによって自動ホーム共有が作成され、ログアウトすると削除されます。

自動ホーム機能を構成するには、この機能を使用可能にして、自動ホームパスを指定します。自動ホームパスとは、ディレクトリ共有のベースディレクトリのパスです。たとえば、ユーザーのホームディレクトリが /vol1/home/sally の場合、自動ホームパスは **/vol1/home** です。一時的な共有の名前は **sally** になります。ユーザーのホームディレクトリの名前は、ユーザーのログイン名と同じである必要があります。

ユーザーがログインすると、サーバーはユーザーの名前と一致するサブディレクトリを確認します。一致するサブディレクトリが検出され、その共有が存在しない場合、一時的な共有が追加されます。ユーザーがログアウトすると、その共有は削除されます。

動作していない状態が 15 分間続くと、Windows クライアントによってユーザーが自動的にログアウトされる場合があります。その結果、公開済みの共有のリストに自動ホーム共有が表示されなくなります。これは、CIFS プロトコルの通常の動作です。ユーザーがサーバー名をクリックするか、エクスプローラウィンドウなどで Sun StorEdge 5210 NAS へのアクセスを試みると、共有が自動的に再表示されます。

注 – システムが再起動すると、すべての自動ホーム共有が削除されます。

自動ホーム共有の構成

自動ホーム共有を使用可能にするには、次の手順に従います。

1. ナビゲーションパネルで、「Windows Configuration」 > 「Configure Autohome」を選択します。

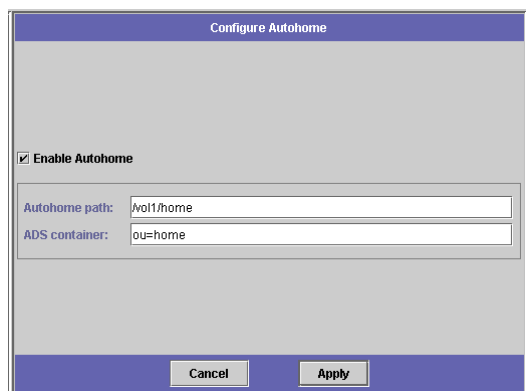


図 5-5 「Configure Autohome」 パネル

2. 「Enable Autohome」チェックボックスを選択します。

3. 「Autohome Path」に自動ホームパスを入力します。パス名の規則については、41ページの「自動ホーム共有の概要」を参照してください。

4. 「ADS Container」を入力します。このフィールドには、共有を公開する ADS コンテナを指定します。「Set Up ADS」パネルで Sun StorEdge 5210 NAS に対して ADS を構成している場合にのみ、ADS で共有を公開できます。

共有の cn (共通名) フォルダまたは ou (組織単位) フォルダの名前をパスとして入力します。cn フォルダは、ルートフォルダ内のデフォルトのフォルダです。そのほかのフォルダはすべて ou フォルダです。たとえば、共有が「home」という親フォルダ内の「shares」フォルダに存在する場合、次のように入力します。

ou=shares, ou=home

注 – パスには、ドメイン名を含めないでください。

5. 「Apply」をクリックして、変更内容を保存します。

ADS での共有の公開方法

Active Directory サービス (ADS) は、ドメインネームシステム (DNS) と統合された Windows 2000 のネームスペースです。ADS はドメインコントローラ上でのみ動作します。ADS は、データを格納および提供するほかに、許可されていないアクセスからネットワークオブジェクトを保護し、1つのドメインコントローラに障害が発生した場合でもデータが失われないように、ネットワーク全体のオブジェクトを複製します。ADS を使用可能にして設定すると、Sun StorEdge 5210 NAS は ADS の更新を自動的に実行します。

Sun StorEdge 5210 NAS を Windows 2000 Active Directory 環境にシームレスに統合するために、ネットワーク上に必要なものを次に示します。

- Windows 2000 サーバーのドメインコントローラ
- Active Directory が統合された DNS サーバー。Sun StorEdge 5210 NAS の動的 DNS 機能を使用する場合には動的更新を許可する必要がありますが、ADS の使用には必要ありません。

ADS の設定後、特定の Sun StorEdge 5210 NAS 共有が ADS ディレクトリに公開されるように ADS を設定できます。これを実行するには、Sun StorEdge 5210 NAS の SMB 共有を作成または更新し、公開する各共有に対して共有コンテナを指定します。

ADS の設定

Sun StorEdge 5210 NAS で ADS サービスを使用可能にするには、次の手順に従います。

1. ナビゲーションパネルで、「System Operations」 > 「Set Time and Date」を選択します。

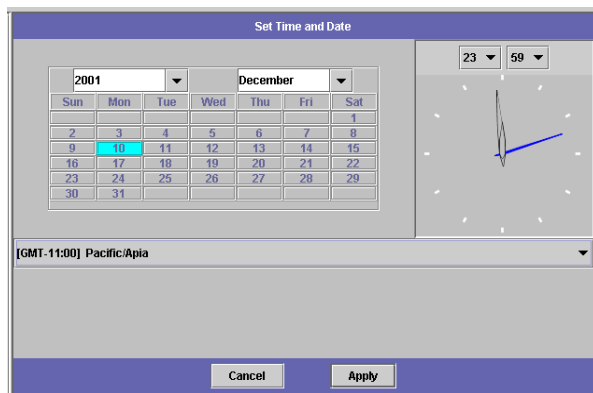


図 5-6 「Set Time and Date」 パネル

2. Sun StorEdge 5210 NAS の時刻と ADS Windows 2000 ドメインコントローラの時刻の誤差が 5 分以内であることを確認します。「Apply」をクリックして、変更内容を保存します。

- ナビゲーションパネルで、「Windows Configuration」 > 「Configure Domains and Workgroups」を選択します。

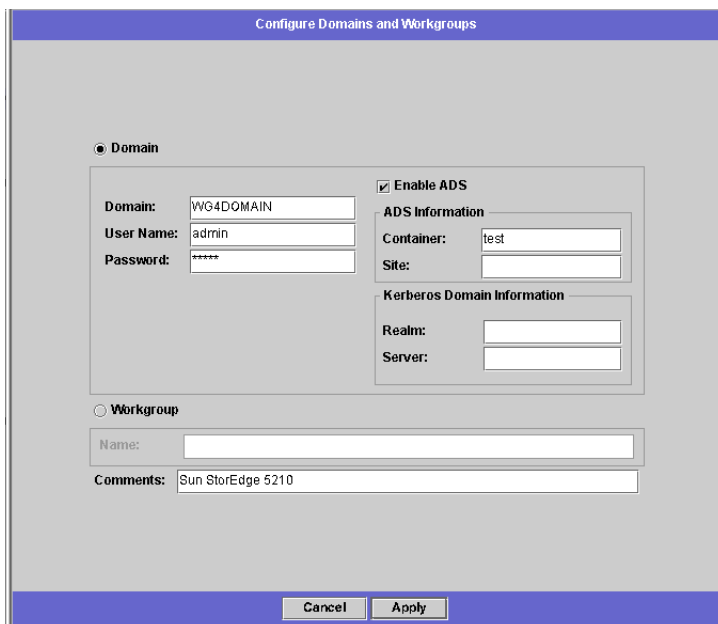


図 5-7 「Configure Domains and Workgroups」 パネル

- 「Enable ADS」チェックボックスを選択します。
- 「Domain」フィールドに、ADS が実行されている Windows 2000 ドメインを入力します。Sun StorEdge 5210 NAS がこのドメインに属している必要があります。
- 「User Name」フィールドに、管理権限を持つ Windows 2000 ユーザーの名前を入力します。このユーザーは、ドメイン管理者か、ドメイン管理者グループのメンバーである必要があります。ADS クライアントでは、このユーザーによるセキュリティ保護された ADS の更新が検証されます。

注 – このフィールドにドメイン管理者名を入力しても ADS の更新が行われない場合は、ドメインコントローラにおいてドメイン管理者パスワードを変更する必要があります。パスワードの変更は、管理者ユーザーのみが行う必要があります。また、同じパスワードを再使用することもできます。詳細は、Microsoft のサポートサービスの Web サイトで「文書番号 Q248808」を参照してください。

- 「Password」フィールドに、Windows 2000 管理者ユーザーのパスワードを入力します。

8. 「Container」フィールドに、LDAP の DN 記法で Windows 2000 管理者ユーザーの ADS のパスを入力します。

ユーザーの cn (共通名) フォルダまたは ou (組織単位) フォルダの名前をパスとして入力します。cn フォルダは、ルートフォルダ内のデフォルトのフォルダです。そのほかのフォルダはすべて ou フォルダです。たとえば、ユーザーが「accounting」という親フォルダ内の「users」フォルダに存在する場合、次のように入力します。

ou=users,ou=accounting

注 – パスには、ドメイン名を含めないでください。

9. ローカル ADS サイトの名前が ADS ドメインと異なる場合は、「Site」フィールドにローカル ADS サイトの名前を入力します。通常、このフィールドは空白のままです。
10. 「Kerberos Realm Info」セクションに、ADS の識別に使用されるレルム名を入力します。これは ADS ドメインまたは DNS ドメインです。「Apply」をクリックすると、入力した値がすべて大文字に変換されます。
11. 「Server」フィールドに、Kerberos KDC サーバーのホスト名を入力します。これは、ADS ドメインのメインドメインコントローラのホスト名です。Sun StorEdge 5210 NAS が DNS を介して KDC サーバーを検索できる場合は、このフィールドは空白のままでもかまいません。
12. 「Apply」をクリックして、変更内容を保存します。

ネームサービスの検索順序の確認

1. DNS のネームサービスの検索順序が使用可能になっており、優先順位が適切に設定されていることを確認します。「UNIX Configuration」 > 「Configure Name Services」を選択します。

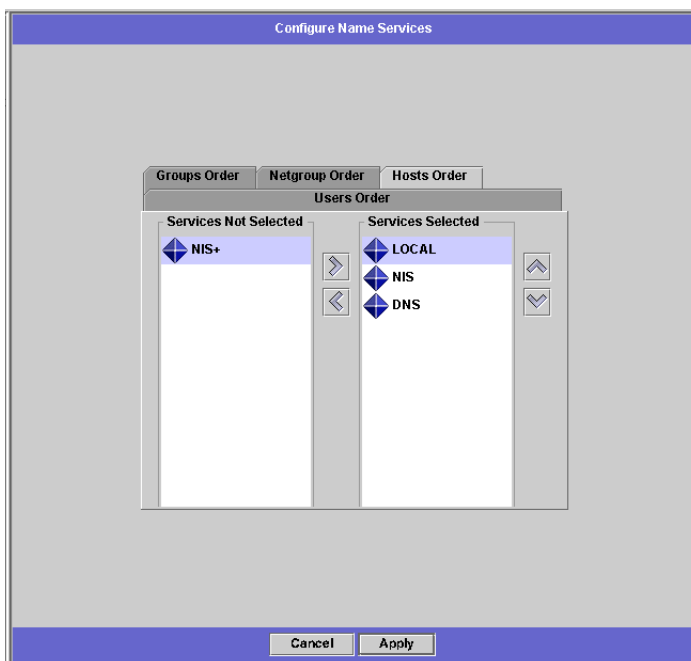





図 5-8 「Configure Name Services」 パネル

DNS サービスは「Hosts Order」タブに表示されています。右側のボックスの「Services Selected」リストに DNS サービスが表示されていることを確認します。表示されていない場合は、DNS サービスを選択して  ボタンをクリックします。

2.  ボタンおよび  ボタンを使用して、選択したサービスの走査順序を変更します。
3. 「Apply」をクリックして、変更内容を保存します。

DNS 構成の確認

1. ナビゲーションパネルで、「Network Configuration」 > 「Configure TCP/IP」 > 「Set Up DNS」を選択します。
2. 「Enable DNS」チェックボックスを選択して、DNS を使用可能にします。

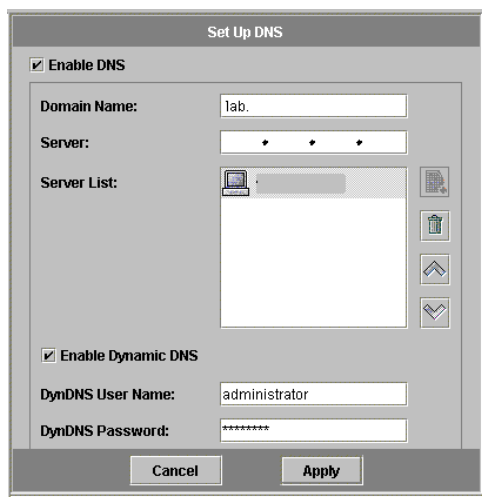



図 5-9 「Set Up DNS」パネル

3. DNS サーバーのドメイン名を入力します。ADS ドメインと同じ名前である必要があります。
4. 「Server」フィールドに、Sun StorEdge 5210 NAS サーバーで使用する DNS サーバーの IP アドレスを入力します。
5. 次に  ボタンをクリックして、このサーバーアドレスを DNS の「Server List」に追加します。
6. 「Enable Dynamic DNS」チェックボックスを選択します。動的 DNS を使用可能にしない場合は、Sun StorEdge 5210 NAS のホスト名および IP アドレスを DNS に手動で追加する必要があります。

注 - 「Set Up ADS」パネルを表示して、Kerberos レalmおよび KDC サーバーを構成する必要があります。また、動的 DNS 機能を使用できるように、DNS サーバーで動的な更新を許可する必要があります。

7. 「DynDNS User Name」フィールドに、セキュリティー保護された動的 DNS の更新の実行に必要な管理権限を持つ Windows 2000 ユーザーの名前を入力します。このユーザーは、「Configure Names and Workgroups」パネルで指定した ADS ドメイン、ADS コンテナ、および Kerberos レalm内に存在する必要があります。

DNS サーバーでセキュリティー保護されていない更新が許可されている場合は、このフィールドを空白のままにして保護されていない更新を実行できます。

8. 「DynDNS Password」フィールドに、動的 DNS ユーザーのパスワードを入力します。
9. 「Apply」をクリックして、変更内容を保存します。動的 DNS が使用可能になっている場合、Sun StorEdge 5210 NAS はすぐに DNS のホスト名および IP アドレスを更新します。

ADS での共有の公開

ADS で共有を公開するには、次の手順に従います。

1. ナビゲーションパネルで、「Windows Configuration」>「Configure Shares」を選択します。
2. 「Add」をクリックして、「Add Share」ダイアログボックスを表示します。

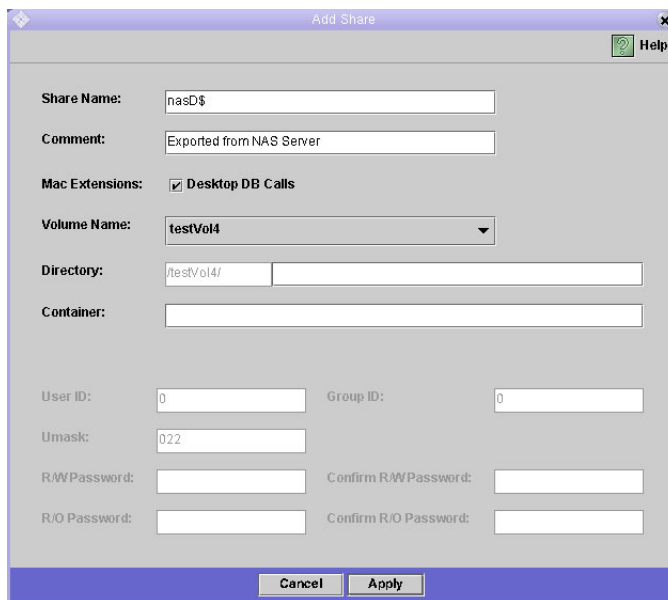


図 5-10 「Add Share」ダイアログボックス

3. 「Share Name」に共有の名前を入力します。

4. 任意で、共有についての説明を「Comment」に入力します。
5. 「Volume Name」プルダウンボックスから共有するボリュームを選択します。
6. 「Directory」フィールドに、選択したボリューム上の、共有する既存ディレクトリを入力します。このフィールドの設定は任意です。
7. 「Container」フィールドに、共有が公開される ADS ディレクトリ内の場所を入力します。「Configure Domains and Workgroups」パネルで Sun StorEdge 5210 NAS に対して ADS を使用可能にしている場合にのみ、このフィールドを使用できます。

共有の cn (共通名) フォルダまたは ou (組織単位) フォルダの名前をパスとして入力します。cn フォルダは、ルートフォルダ内のデフォルトのフォルダです。そのほかのフォルダはすべて ou フォルダです。たとえば、共有が「accounting」という親フォルダ内の「shares」フォルダに存在する場合、次のように入力します。

ou=shares,ou=accounting

注 – パスには、ドメイン名を含めないでください。

8. 「Apply」をクリックします。

注 – 指定したフォルダで共有を公開するには、そのフォルダが存在している必要があります。Sun StorEdge 5210 NAS では、ADS ツリーにフォルダ (コンテナ) を作成できません。

第6章

UNIX の構成

ネームサービスの構成方法

LDAP の設定

LDAP を使用するには、LDAP サーバーが動作している必要があります。

Sun StorEdge 5210 NAS で LDAP サービスを使用可能にするには、次の手順に従います。

1. ナビゲーションパネルで、「UNIX Configuration」 > 「Set Up NSSLDAP」を選択します。



図 6-1 「Set Up NSSLDAP」パネル

2. LDAP を使用可能にするには、「Enable NSSLDAP」チェックボックスを選択します。
3. 「Domain」フィールドに、「foo.com」などの LDAP サーバーのドメイン名を入力します。
4. 「Password」フィールドに、LDAP サーバーで設定されたパスワードを入力します。
5. 「Server」フィールドに、LDAP サーバーの IP アドレスを入力します。
6. 「Proxy」フィールドに、サーバー設定に応じて、プロキシドメインを入力します。
7. 「Apply」をクリックして設定を保存します。

NIS の設定

「Set Up NIS」パネルを使用すると、ネットワーク情報サービス (Network Information Service: NIS) を使用可能にし、ドメイン名およびサーバーの IP アドレスを指定できます。

NIS を設定するには、次の手順に従います。

1. ナビゲーションパネルで、「UNIX Configuration」>「Set Up NIS」を選択します。

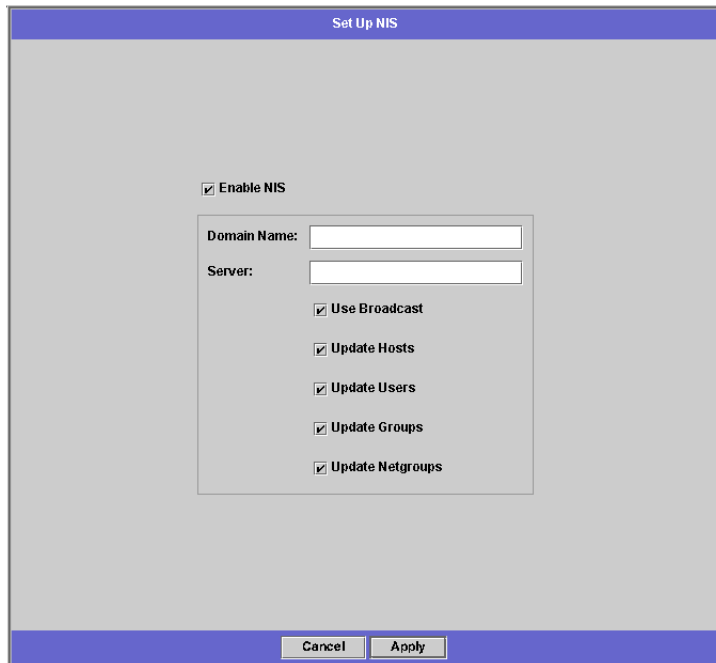


図 6-2 「Set Up NIS」パネル

2. 「Enable NIS」チェックボックスを選択します。NIS を使用可能にすると、ホスト、ユーザー、およびグループの情報用の中央データベースが Sun StorEdge 5210 NAS に作成されます。
3. 「Domain Name」フィールドに、NIS サービス用に使用するドメインの名前を入力します。ホスト、ユーザー、およびグループの情報用のデータベースは、このドメインに作成されます。DNS の命名規則を使用します (hostname.domain.com など)。

4. 「Server」フィールドに、NIS サーバーの IP アドレスまたは名前を入力します。これは、データベースのインポート元のサーバーです。
サーバーの IP アドレスが不明な場合、「Server」フィールドは空白のままにしておきます。ただし、「Server」フィールドを空白にする場合、「Use Broadcast」チェックボックスを選択する必要があります。「Use Broadcast」を選択すると、NIS サーバーの適切な IP アドレスが自動的に取得されます。
5. 必要に応じて、「Use Broadcast」を選択します (前の手順を参照)。
6. ホスト情報を更新するには、「Update Hosts」チェックボックスを選択します。
7. ユーザー情報を更新するには、「Update Users」チェックボックスを選択します。
8. グループ情報を更新するには、「Update Groups」チェックボックスを選択します。
9. ネットグループ情報を更新するには、「Update Netgroups」チェックボックスを選択します。
10. 「Apply」をクリックして、変更内容を保存します。

NIS+ の設定

ネットワーク情報サービスプラス (Network Information Service Plus: NIS+) は、Solaris OS の新しいデフォルトネームサービスで、NIS に代わるものとして設計されました。NIS+ では、NIS クライアントに提供されるサポートは制限されますが、NIS では解決できない問題に主に対応しています。

注 – NIS+ と NIS には関連性はありません。NIS+ のコマンドおよび全体的な構造は、NIS とは異なります。

NIS+ を設定するには、次の手順に従います。

1. NIS+ 環境で Sun StorEdge 5210 NAS を正常に動作させるためには、NIS+ サーバー上のホストの資格ファイルに Sun StorEdge 5210 NAS サーバーを追加する必要があります。使用する NIS+ サーバーで次の手順を実行します。
 - a. スーパーユーザーでログインします。
 - b. 次のコマンドを入力します。

```
nisaddcred -p unix.SERVER.@DOMAIN -P SERVER.DOMAIN. des
```

SERVER には Sun StorEdge 5210 NAS サーバーの名前を、**DOMAIN** には Sun StorEdge 5210 NAS が所属する NIS+ ドメインの名前を指定します。

注 - **-P** 引数のあとに指定する場合にかぎり、ドメイン名の末尾にはピリオドを追加する必要があります。

たとえば、Sun StorEdge 5210 NAS の名前が SS2 で、NIS+ ドメインが sun.com である場合は、次のようにコマンドを入力します。

```
nisaddcred -p unix.ss2@sun.com -P ss2.sun.com. des
```

- c. パスワードの入力を求めるプロンプトが表示されます。このパスワードは、この手順の後半で NIS+ を使用するように Sun StorEdge 5210 NAS を構成するときにも使用します。パスワードを入力します。
2. 遠隔ワークステーションから Sun StorEdge 5210 NAS サーバーへの接続用の Web ブラウザウィンドウを開き、Web Administrator にログインします。
3. ナビゲーションパネルで、「UNIX Configuration」 > 「Configure Name Services」を選択します。

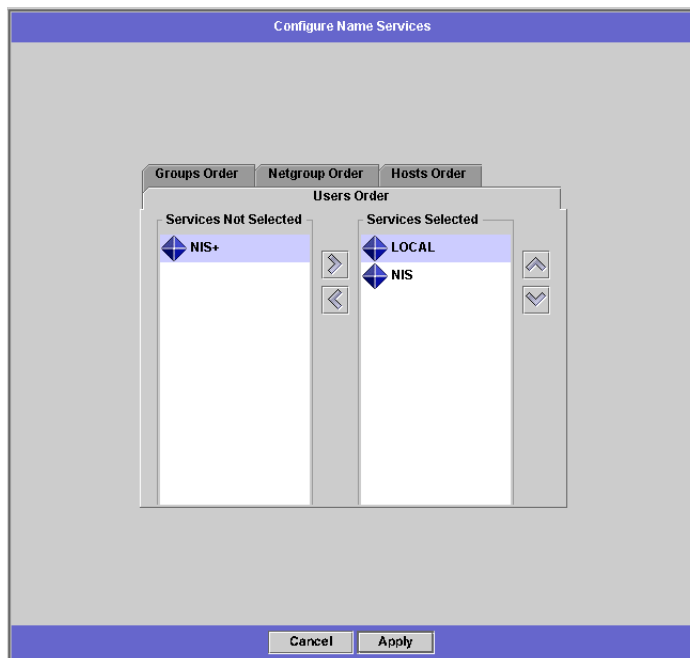





図 6-3 「Configure Name Services」パネル

4. NIS+ サービスを選択して  ボタンをクリックし、「Services Selected」リストに追加します。

5.  ボタンおよび  ボタンを使用して、ユーザー、グループ、ネットグループ、およびホストの名前解決に NIS+ などのネームサービスが使用される順序を設定します。
6. 「Apply」をクリックして、変更内容を保存します。
7. ナビゲーションパネルで、「UNIX Configuration」>「Set Up NIS+」を選択します。

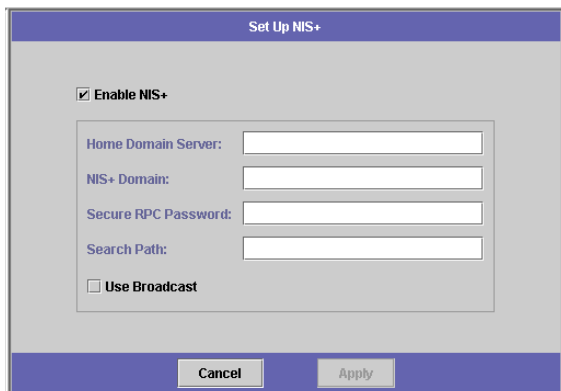


図 6-4 「Set Up NIS+」 パネル

8. 「Enable NIS+」チェックボックスを選択します。
9. 「Home Domain Server」フィールドに、NIS+ のホームドメインサーバーの IP アドレスを入力します。
ホームドメインサーバーの IP アドレスが不明な場合、このフィールドを空白のままにして、「Use Broadcast」チェックボックスを選択します。このオプションを選択すると、Sun StorEdge 5210 NAS によってホームドメインサーバーの適切な IP アドレスが自動的に取得されます。
10. 「NIS+ Domain」フィールドに NIS+ のホームドメインを入力します。

注 – NIS+ ドメイン名の末尾には「.」（ピリオド）を付ける必要があります。

11. NIS+ サーバーの、セキュリティー保護された RPC パスワードを入力します。これは、手順 1.c で設定したパスワードです。
12. 「Search Path」に、コロンで区切ったドメインのリストを入力します。検索パスには、NIS+ での情報検索時に検索されるドメインを指定します。ホームドメインとその親のみを検索する場合、このフィールドは空白のままにします。
たとえば、NIS+ ドメインが **eng.sun.com.** で検索パスが空白の場合、Sun StorEdge 5210 NAS の名前解決では、最初に **eng.sun.com.**、次に **sun.com.** が検索されます。これに対して、検索パスに **sun.com.** を指定した場合は、Sun StorEdge 5210 NAS の名前解決では **sun** のドメインのみが検索されます。

13. ホームドメインサーバーの IP アドレスが不明な場合、「Use Broadcast」チェックボックスを選択します。
14. 「Apply」をクリックして、変更内容を保存します。

ネームサービスの検索順序の設定

ネームサービス (NS) の検索順序によって、照会を解決するためにネームサービスを検索する順序が制御されます。これらのネームサービスには、LDAP、NIS、NIS+、DNS、ローカルネームサービスなどがあります。名前解決にこれらのサービスを使用するには、選択したサービスを使用可能にする必要があります。

ユーザー、グループ、ネットグループ、およびホストの検索順序を設定するには、次の手順に従います。

1. ナビゲーションパネルで、「UNIX Configuration」>「Configure Name Services」を選択します。

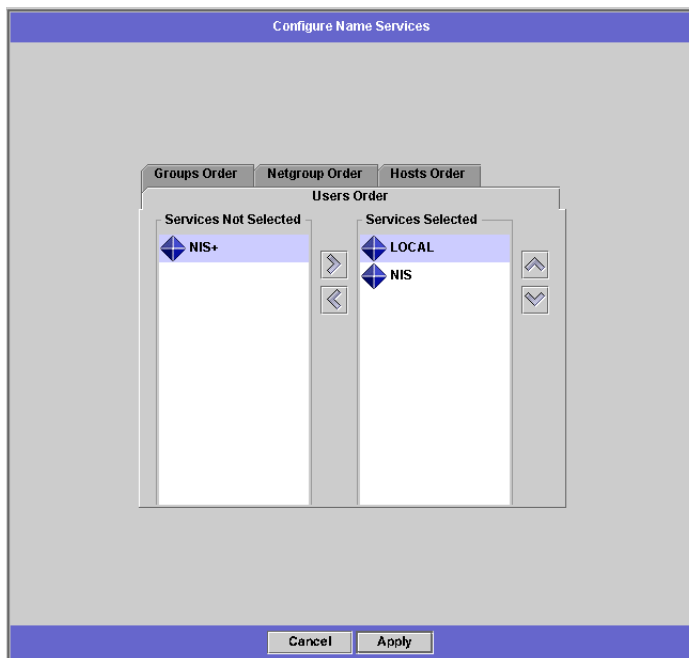






図 6-5 「Configure Name Services」パネル

2. 「Users Order」タブで、ユーザーの検索順序を選択します。
 - a. 「Services Not Selected」ボックスから、ユーザー検索に使用するサービスを選択します。

- b.  ボタンをクリックして、選択したサービスを「Services Selected」ボックスに移動します。
 - c. ユーザーの検索に使用する各サービスに対して、この手順を繰り返します。
 - d. ユーザーの検索からサービスを削除するには、該当するサービスを選択して  ボタンをクリックします。
 - e. 「Services Selected」ボックス内のサービスの検索順序を変更するには、各サービスを選択します。
 - f.  ボタンおよび  ボタンをクリックして、選択したサービスを上下に移動します。リストの最上位にあるサービスが、ユーザーの検索で最初に使用されません。
3. 手順 2 の実行後、「Groups Order」タブでグループの検索に使用するサービスを選択します。
 4. 手順 2 の実行後、「Netgroup Order」タブでネットグループの検索に使用するサービスを選択します。
 5. 手順 2 の実行後、「Hosts Order」タブでホストの検索に使用するサービスを選択します。「Apply」をクリックして、変更内容を保存します。

ホストの構成方法

「Set Up Hosts」パネルでは、ホスト名、ホストの IP アドレス、ホストが承認されているかどうかなど、ホストの最新情報が表形式で表示されます。

警告 – ホストに承認 (Trusted) の状態を割り当てる場合には注意が必要です。承認されたホストは Sun StorEdge 5210 NAS のファイルシステムにスーパーユーザーでアクセスできるため、システムのすべてのファイルおよびディレクトリに対して完全な読み取り/書き込みアクセス権を持ちます。

ホストの追加

「Set Up Hosts」パネルでは、ホスト情報を参照して、ホストを承認するかどうかを指定できます。NFS クライアントが承認されたホストとして定義されており、ファイルへのアクセス権に関係なくすべてのファイルにアクセスできる場合、そのクライアントのスーパーユーザーには、Sun StorEdge 5210 NAS に対するスーパーユーザー権限が付与されます。

Sun StorEdge 5210 NAS サーバーにホストを手動で追加するには、次の手順に従います。

1. ナビゲーションパネルで、「UNIX Configuration」 > 「Configure NFS」 > 「Set Up Hosts」を選択します。

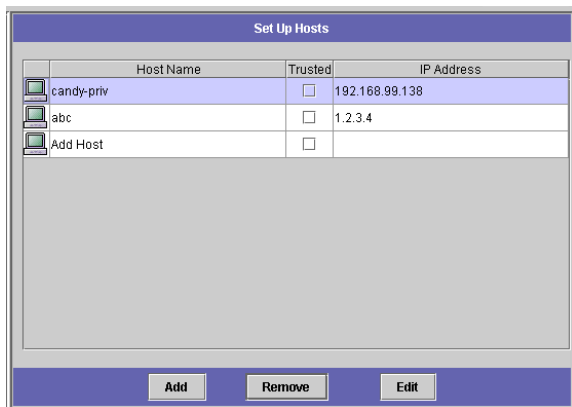


図 6-6 「Set Up Hosts」パネル

2. 「Add」をクリックして、「Add Host」ダイアログボックスを表示します。

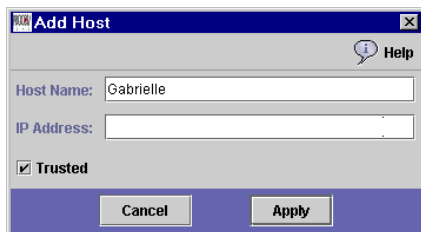


図 6-7 「Add Host」ダイアログボックス

3. ホスト名を入力します。これは、ネットワーク上でホストが認識される名前です。このエントリには、英数字 (a ~ z、A ~ Z、0 ~ 9)、「-」(ダッシュ)、「_」(下線)、および「.」(ピリオド)のみを指定できます。先頭の文字は、英字 (a ~ z または A ~ Z のみ) にする必要があります。
4. 新しいホストの IP アドレスを入力します。
5. ホストを承認する場合は、「Trusted」チェックボックスを選択します。承認されたホストは、ネットワークサーバーにスーパーユーザーでアクセスできます。
6. 「Apply」をクリックして、変更内容を保存します。

NFS エクスポートの設定方法

NFS エクスポートを使用すると、特定のボリュームに対する UNIX ユーザーのアクセス権限 (エクスポート) を指定できます。「Configure Exports」パネルの表には、各エクスポートのアクセス可能なディレクトリ、ホスト名、およびアクセスレベル (読み取り/書き込みまたは読み取り専用) など、現在の NFS エクスポートの情報が表示されます。

「@」で始まるホスト名は、ホストのグループを示します。たとえば、ホスト名が `@general` の場合にはすべてのホストが含まれ、ホスト名が `@trusted` の場合にはすべての承認されたホストが含まれます。

エクスポートの作成

特定の UNIX ホストのアクセス権限を指定するには、次の手順に従います。

1. ナビゲーションパネルで、「UNIX Configuration」 > 「Configure NFS」 > 「Configure Exports」を選択します。

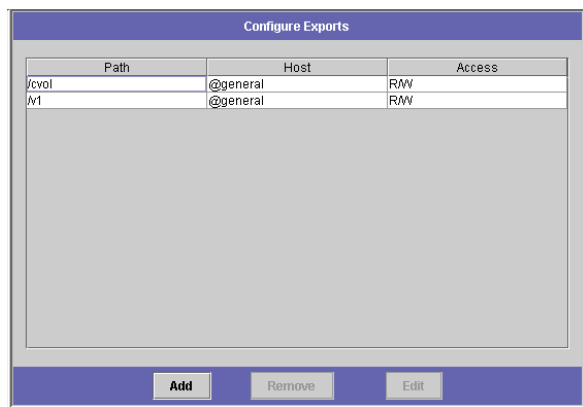


図 6-8 「Configure Exports」パネル

2. エクスポートを作成していない場合、この部分は空白になります。「Add」をクリックしてエクスポートを作成します。

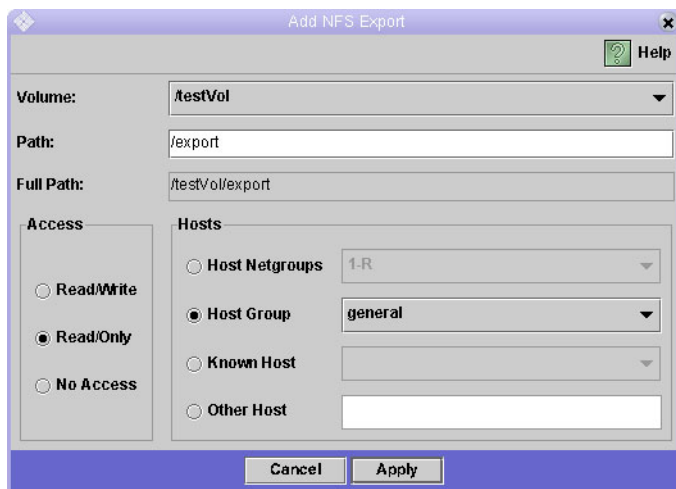


図 6-9 「Add NFS Export」 ダイアログボックス

3. 「Volume」ボックスで、UNIX ホストにアクセス権を付与するボリュームを選択します。「Path」フィールドにパスを入力します。
「Full Path」フィールドに、入力したボリュームおよびパスが表示されます。
4. 「Access」ボックスで、選択したボリュームに対する、読み取り/書き込み、読み取り専用、またはアクセス不可のどの権限をホストに付与するかを指定します。
5. 「Hosts」セクションで、NFS エクスポートを定義する 1 つ以上のホストを選択します。次のいずれかを選択します。
 - **Host Netgroups:** ネットワーク接続されたホストのグループを選択するには、このオプションボタンを選択します。ドロップダウンリストから、このエクスポートを定義するネットグループを選択します。
 - **Host Group:** すべてのホストまたはすべての承認されたホストを選択するには、このオプションボタンを選択します。ドロップダウンリストから、すべてのホストを示す「general」またはすべての承認されたホストを示す「trusted」のいずれかを選択します。
 - **Known Host:** 「Set Up Hosts」パネルを使用して追加したホストにエクスポートを割り当てるには、このオプションを選択します。ドロップダウンリストから、このエクスポートを定義するホストを選択します。
 - **Other Host:** 「Set Up Hosts」パネルを使用して追加していない個々のホストにエクスポートを割り当てるには、このオプションを選択して、ホストの名前を入力します。
6. 「Apply」をクリックして、エクスポートを保存します。

7. 「Configure Exports」パネルで、作成したエクスポートについて正しいパス、ホスト、およびアクセス権が表示されていることを確認します。
8. 「Apply」をクリックして、変更内容を保存します。

ユーザーおよびグループの資格のマッピング

システムに UNIX 環境と Windows 環境の両方が存在する場合、ユーザーやグループがどちらの環境からでも Sun StorEdge 5210 NAS のファイルにアクセスできるように設定できます。

UNIX と Windows との間でユーザーおよびグループをマッピングするには、次の手順に従います。

1. ナビゲーションパネルで、「Windows Configuration」>「Manage SMB/CIFS Mapping」>「Configure Mapping Policy」を選択します。



図 6-10 「Configure Mapping Policy」パネル

2. 「Windows <-> UNIX User Mapping Choice」セクションでは、Sun StorEdge 5210 NAS 上のユーザーマッピングを設定できます。
 - **Default Mapping:** ユーザーマッピングを使用不可にするには、このオプションを選択します。同一のユーザー名またはフルネームを持つユーザーに個別のアクセス権を付与する必要がある場合に選択します。

- **Map by User Name:** 同一のユーザー名を持つ UNIX ユーザーと NT ユーザーをマッピングし、両方の環境から同じユーザーが Sun StorEdge 5210 NAS にアクセスできるようにするには、このオプションを選択します。
 - **Map by Full Name:** 同一のフルネームを持つ UNIX ユーザーと NT ユーザーをマッピングするには、このオプションを選択します。
3. 「Windows <--> UNIX Group Mapping Choice」セクションでは、グループマッピングを設定できます。
- **Default Mapping:** グループマッピングを使用不可にするには、このオプションを選択します。このオプションを選択すると、システムでは同じ名前を持つグループが 1 つのグループとして認識されなくなります。
 - **Map by Group Name:** 同一のグループ名を持つ UNIX グループと NT グループをマッピングするには、このオプションを選択します。
 - **Map to Primary Group:** 構成済みの passwd ファイルの一次グループフィールドの NFS グループにマッピングするには、このオプションを選択します。
4. 「Apply」をクリックして、変更内容を保存します。

システムバックアップ

NDMP の設定方法

NDMP (Network Data Management Protocol) は、ネットワークベースのバックアップ用のオープンなプロトコルです。NDMP アーキテクチャーに基づいて、ネットワーク接続記憶装置のベンダーは NDMP 準拠のサーバーを出荷しています。これらのサーバーでは、NDMP 準拠のバックアップ管理アプリケーションを使用できます。

1. ナビゲーションパネルで、「System Backup」 > 「Set Up NDMP」を選択します。

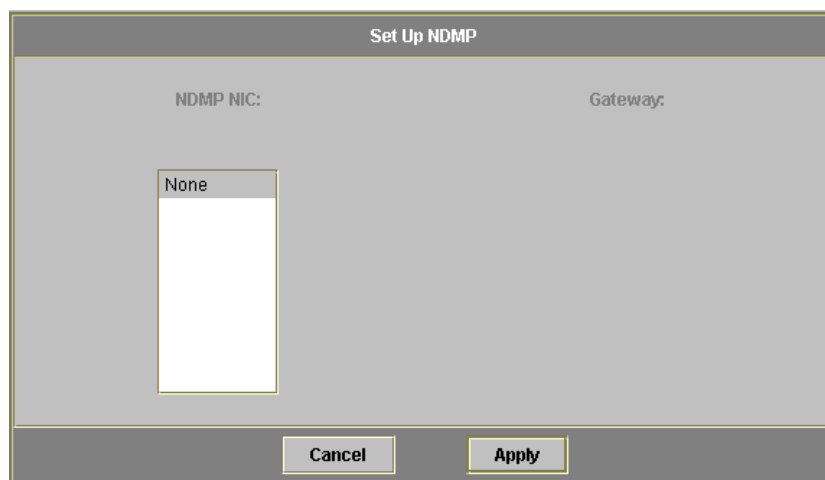


図 7-1 「Set Up NDMP」パネル

2. バックアップテープドライブへのデータ転送に使用する「NDMP NIC」を選択します。

各 NIC のゲートウェイアドレスが表示されます。NDMP バックアップテープデバイスが別のネットワークに存在する場合は、適切なゲートウェイに接続されている NIC を選択する必要があります。

3. 「Apply」をクリックして、変更内容を保存します。

第8章

監視および通知

SNMP の構成方法

SNMP (ネットワーク管理プロトコル) 通信では、SNMP 監視を実行することができます。Sun StorEdge 5210 NAS では SNMP 監視のみをサポートしています (SNMP 管理はサポートしていません)。

Sun StorEdge 5210 NAS のメッセージ情報ブロック (MIB) を解釈するには、ネットワーク管理システムに、マニュアル CD の「MIB Files」フォルダ内の MIB ファイルをコピーする必要があります。Sun StorEdge 5210 NAS ソフトウェアを更新した場合は、同じ場所から更新済みの MIB ファイルをコピーします。これらのファイルの使用方法については、ネットワーク管理アプリケーションのマニュアルを参照してください。


SNMP を設定するには、次の手順に従います。

1. ナビゲーションパネルで、「Monitoring and Notification」 > 「Configure SNMP」を選択します。

Destination IP Address	Port #	Version	Community	Enable
* * *	162		Unused	<input type="checkbox"/>
* * *	162		Unused	<input type="checkbox"/>
* * *	162		Unused	<input type="checkbox"/>
* * *	162		Unused	<input type="checkbox"/>
* * *	162		Unused	<input type="checkbox"/>

図 8-1 「Configure SNMP」 パネル

2. 「Enable SNMP」チェックボックスを選択します。
3. 「Server SNMP Community」フィールドに、Sun StorEdge 5210 NAS が属する SNMP コミュニティーを入力します。
4. 「Contact Info」および「System Location」は説明フィールドです。「Contact Info」フィールドに、この Sun StorEdge 5210 NAS システムの管理者名を入力します。「System Location」フィールドに、ネットワーク上の場所を入力します。物理的な場所または論理的な場所のいずれでもかまいません。
5. 新しいターゲットアドレスを追加する場合は、SNMP 表の未使用の行に次の情報を入力します。
 - a. Destination IP Address: SNMP トラップ先として指定するサーバーの TCP/IP アドレスを入力します。
 - b. Port #: Sun StorEdge 5210 NAS によってトラップが送信されるポートを入力します。デフォルトのポートは 162 です。
 - c. Version: プルダウンメニューから SNMP プロトコルのバージョン (1 または 2) を選択します。
 - d. Community: トラップ先のコミュニティ文字列を入力します。

- e. Enable: このターゲットアドレスをトラップ先として使用可能にする場合は、この列のチェックボックスを選択します。
6. ターゲットアドレスを削除する場合は、削除する行を選択して  ボタンをクリックします。
7. 「Apply」をクリックして、変更内容を保存します。

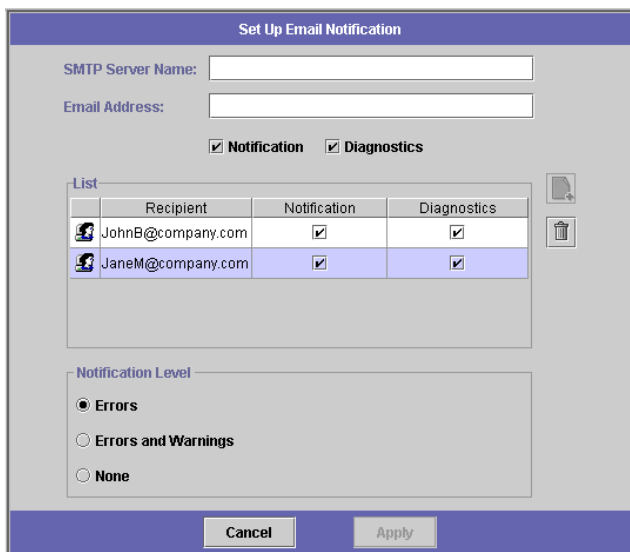
電子メール通知の設定方法

この画面では、SMTP サーバー名および電子メール通知の受信者を設定します。Sun StorEdge 5210 NAS でシステムエラーが検出されると、指定した受信者に電子メールメッセージが送信されます。



名前解決を確実に実行するには、「Configure Hosts」パネルで SMTP サーバーのホスト名を設定するか、DNS を設定する必要があります。

SMTP および電子メール通知の受信者を設定するには、次の手順に従います。

1. ナビゲーションパネルで、「Monitoring and Notification」 > 「Set Up Email Notification」を選択します。





The screenshot shows the 'Set Up Email Notification' configuration window. It has a title bar with the text 'Set Up Email Notification'. Below the title bar, there are two input fields: 'SMTP Server Name:' and 'Email Address:'. Below these fields are two checkboxes: 'Notification' and 'Diagnostics', both of which are checked. Below the checkboxes is a table with the following structure:

List			
	Recipient	Notification	Diagnostics
	JohnB@company.com	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
	JaneM@company.com	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>

Below the table is a section for 'Notification Level' with three radio buttons: 'Errors' (selected), 'Errors and Warnings', and 'None'. At the bottom of the window are two buttons: 'Cancel' and 'Apply'.

図 8-2 「Set Up Email Notification」パネル

2. 通知の送信先の SMTP サーバーの名前を入力します。

3. 「Email Address」ボックスに、システムエラーを自動的に通知する宛先となる担当者の電子メールアドレスを入力します。
4. この受信者に送信する電子メールのタイプを指定します。「Notification」オプションまたは「Diagnostics」オプション、あるいはその両方をチェックします。
5. 「Errors」、「Errors and Warnings」、または「None」をクリックして通知レベルを選択します。
6.  ボタンをクリックして、新しい受信者を受信者のリストに追加します。
7. すべての受信者に対して手順 1 ~ 5 を繰り返します。電子メールアドレスは 4 つまで入力できます。
8. リストから受信者を削除する場合は、該当する受信者を選択し、 ボタンをクリックします。
9. 「Notification Level」を選択します。
 - 「Errors and Warnings」を選択すると、受信者にすべての警告およびエラーが通知されます。
 - 「Errors Only」を選択すると、電子メール受信者にエラーは通知されますが、警告は通知されません。
 - 「None」を選択すると、Sun StorEdge 5210 NAS から受信者には何も通知されません。
10. 「Apply」をクリックして、変更内容を保存します。

UPS 監視を使用可能にする方法



注意 – UPS 監視を使用可能にするには、事前に Sun StorEdge 5210 NAS の背面の UPS 監視ポートに UPS の状態出力を接続しておきます。接続の詳細は、『Sun StorEdge 5210 NAS ハードウェア設置・設定・ユーザーマニュアル』を参照してください。接続されていないと、監視システムは UPS 障害を通知します。

注 – Sun StorEdge 5210 NAS では UPS 監視のみをサポートしています。UPS 管理はサポートしていません。

UPS 監視の使用可能への切り替え

ナビゲーションパネルで、「Monitoring and Notification」 > 「Enable UPS Monitoring」を選択します。

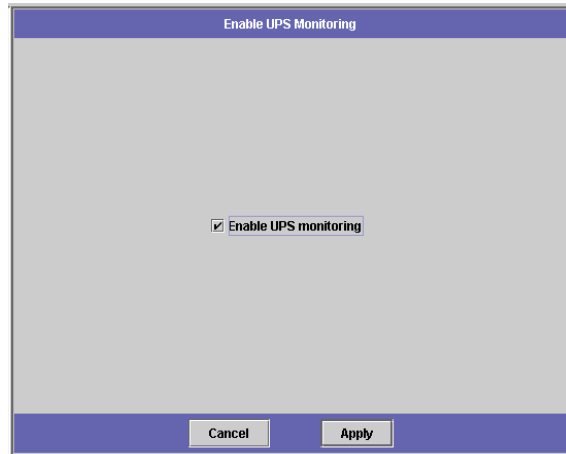


図 8-3 「Enable UPS Monitoring」パネル

第9章

RAID の管理

LUN の構成

LUN の追加

LUN を追加する際には、LUN で使用するディスクがすでに別の LUN に割り当てられていたり、ホットスペアとして使用されていたりしないことを事前に確認してください。

ディスクの状態は、「Manage RAID」パネルで確認できます。

新しい LUN を追加するには、次の手順に従います。

1. ナビゲーションパネルで、「RAID」 > 「Manage RAID」を選択します。

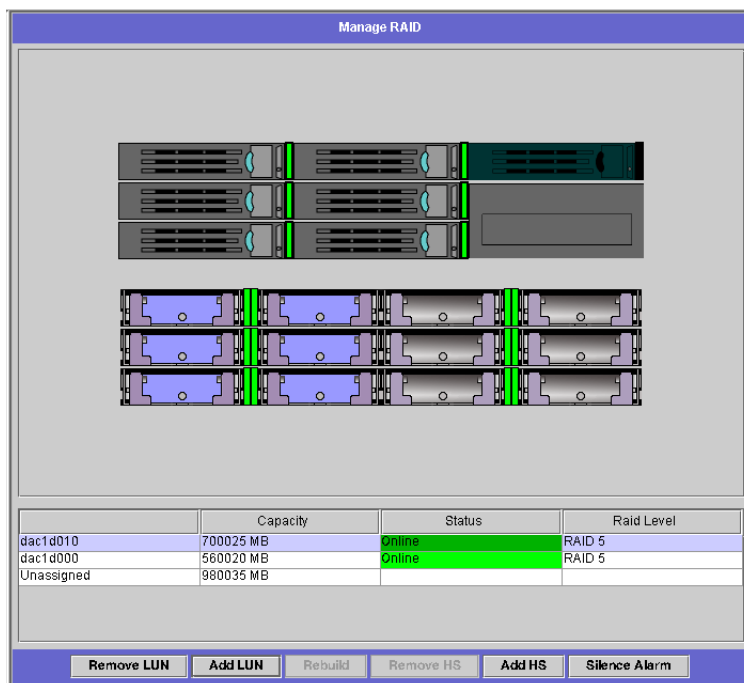


図 9-1 「Manage RAID」パネルおよび拡張ユニット

2. 「Add LUN」 をクリックします。

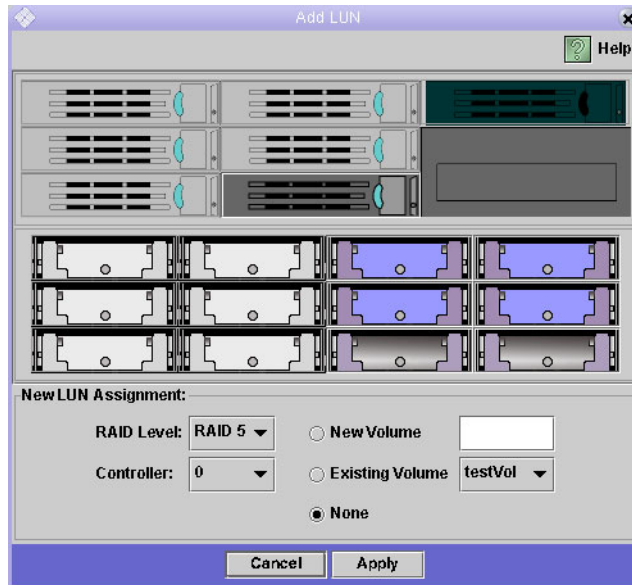






図 9-2 「Add LUN」 ダイアログボックス

3. ドライブイメージをクリックして、LUN に含めるドライブを選択します。ドライブは、3 台以上選択する必要があります。使用可能なドライブが 3 台のみの場合は、自動的に選択されます。

ドライブイメージには各ドライブの状態が次のように表示されます。

表 9-1 「Add LUN」 ダイアログボックスのドライブの状態イメージ

ドライブ	表示
	このスロットのドライブは、LUN メンバーとして選択できます。
	このスロットのドライブは、LUN メンバーとしてすでに選択されています。
	このスロットのドライブは、別に指定されているため LUN メンバーには選択できません。
	このスロットにはドライブが存在しません。

4. 新しい LUN に次のいずれかのオプションを選択します。

- **New Volume:** この LUN に新しいボリュームを作成する場合に選択します。表示されているフィールドに、新しいボリューム名を入力します。

- **Existing Volume:** 既存のボリュームにディスク容量を追加して、セグメントの作成や配置などを行う場合に選択します。ドロップダウンリストから、拡張するボリュームを選択します。
 - **None:** 名前を割り当てずに新しい LUN を作成する場合に選択します。
5. 「Apply」をクリックして新しい LUN を追加します。LUN の作成には数時間かかります。

LUN の再構築

LUN 内のいずれかのドライブに障害が発生した場合、そのドライブの LED が赤色に変わります。ドライブの 1 つがホットスペアとして指定されていれば、LUN は自動的に再構築されます。再構築が完了するには数時間かかる場合があります。

システムにホットスペアが指定されていない場合は、障害が発生したドライブを取り外し、同じ容量を持つ別のドライブと交換する必要があります。

障害が発生したディスクの交換後、RAID コントローラが自動的に LUN を再構築します。ディスク容量によって異なりますが、LUN の再構築には数時間かかる場合があります。LUN の再構築中、LUN ドライブの LED は黄色に点滅します。

LUN の削除

LUN を削除するには、次の手順に従います。

1. ナビゲーションパネルで、「RAID」>「Manage RAID」を選択します。
2. 「Remove LUN」をクリックします。

3. システムによって、削除対象の LUN に属するドライブが自動的に選択されます。削除できるのは、最後に追加された LUN のみです。

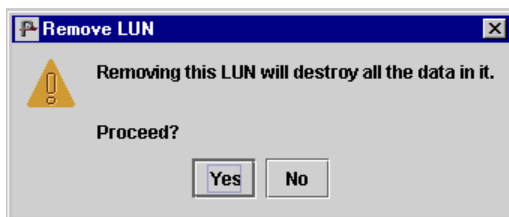


図 9-3 「Remove LUN」ダイアログボックス



注意 – 「Yes」を選択すると、LUN 上のすべてのデータが削除されます。

4. 「Yes」をクリックして、LUN を削除します。

ホットスペアの構成

ホットスペアの指定

アレイ内のディスクをホットスペアとして指定するには、次の手順に従います。

1. ナビゲーションパネルで、「RAID」>「Manage RAID」を選択します。

2. 「Add HS」 をクリックします。

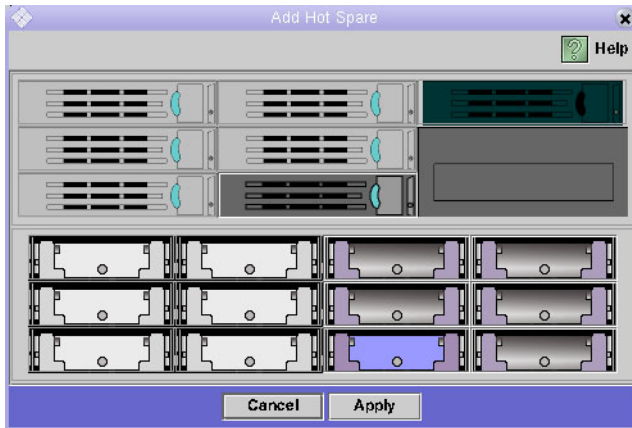


図 9-4 「Add Hot Spare」 ダイアログボックス

3. ドライブイメージをクリックしてドライブを選択します。デフォルトでは、画面に表示されている使用可能なドライブのうち、いちばん左にあるドライブが選択されています。ホットスペアとして使用するディスクの容量は、この Sun StorEdge 5210 NAS 装置上の LUN 内の最大ディスクと同じかそれ以上である必要があります。
4. 「Apply」 をクリックして、新しいホットスペアを追加します。

ホットスペアの削除

RAID アレイからホットスペア状態のドライブを削除するには、次の手順に従います。

1. ナビゲーションパネルで、「RAID」 > 「Manage RAID」 を選択します。
2. 削除するホットスペアのドライブイメージをクリックして選択します。ホットスペアが 1 つのみ存在する場合は、そのホットスペアが自動的に選択されます。

3. 「Remove HS」をクリックします。

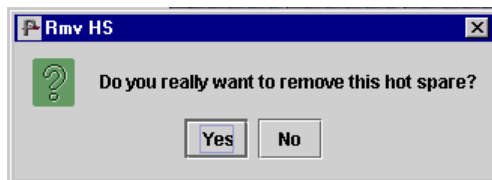


図 9-5 「Remove Hot Spare」ダイアログボックス

4. 「Yes」をクリックして、ホットスペアを削除します。

コントローラ情報の表示

「View Controller Information」パネルには、コントローラのベンダー、モデル、およびファームウェアリリースが読み取り専用で表示されます。

コントローラのベンダー、モデル、およびファームウェアリリースを表示するには、ナビゲーションパネルで「RAID」>「View Controller Information」を選択します。

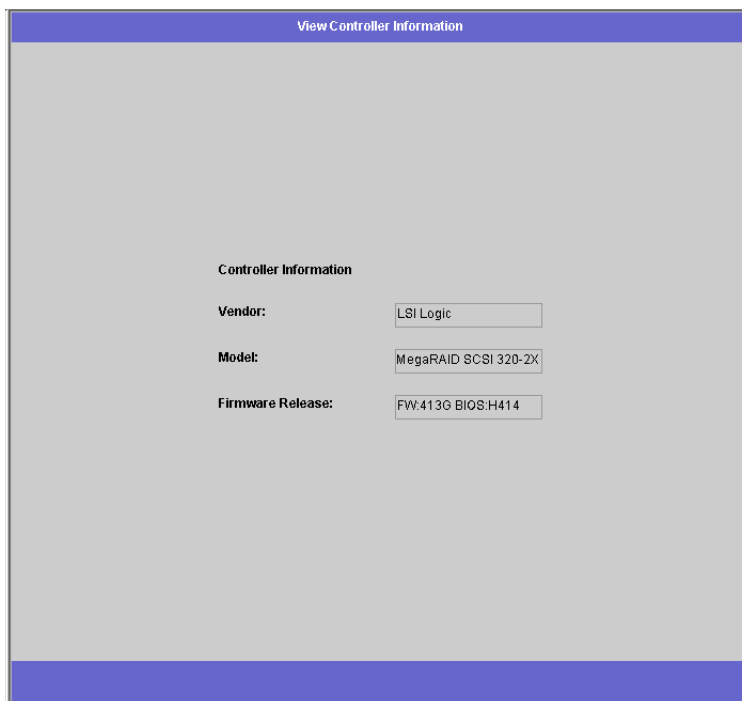


図 9-6 「View Controller Information」 パネル

付録 A

障害追跡

この付録では、診断電子メールの送信方法および Sun の技術サポートチームへの問い合わせ方法について説明します。


Sun StorEdge 5210 NAS の物理コンポーネントに問題がある場合は、マニュアル CD に収録されている『Sun StorEdge 5210 NAS ハードウェア設置・設定・ユーザーマニュアル』またはパッケージに同梱された「設定手順のポスター」を参照してください。

診断電子メールメッセージの送信

診断電子メール機能を使用して、Sun の技術サポートチームまたはその他の任意の受信者に電子メールメッセージを送信できます。診断電子メールメッセージには、Sun StorEdge 5210 NAS のシステム構成、ディスクサブシステム、ファイルシステム、ネットワーク構成、SMB 共有、バックアップや復元処理などに関する情報、システムログ、環境データ、および管理者情報が含まれます。

送信されるすべての診断電子メールメッセージには、発生した問題にかかわらず、これらのすべての情報が含まれます。

診断電子メールを設定するには、次の手順に従います。

1. 画面上部のツールバー上の  ボタンを選択します。「Diagnostic Email」ダイアログボックスが表示されます。

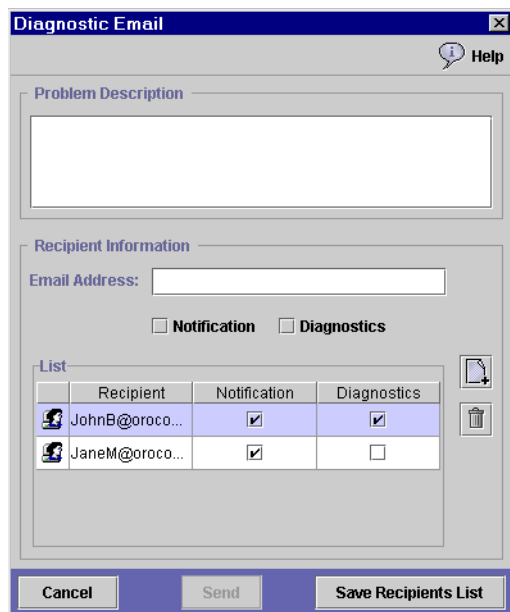




図 A-1 「Diagnostic Email」ダイアログボックス

2. 「Problem Description」フィールドに問題の詳細を入力します。これは必須エントリで、256 文字まで入力できます。
3. 「E-mail Address」フィールドに、1 つ以上の電子メールアドレスを入力します。受信者として Sun の技術サポートを指定するには、「support@sun.com」と入力します。
4. 送信するメッセージの種類として、「Notification」または「Diagnostic」、あるいはその両方をチェックします。
5.  ボタンをクリックして、受信者のリストに新しい受信者を追加します。リストには電子メールアドレスを 4 つまで追加できます。
リストから受信者を削除するには、該当する電子メールアドレスを選択し、 ボタンをクリックします。
6. 「Send」をクリックしてメッセージを送信します。

Sun の技術サポート

このユーザーマニュアルを参照して、製品の理解や問題の解決に役立ててください。さらにサポートが必要な場合は、ご購入先にお問い合わせください。

Sun では、卓越したサービスを迅速に提供することで、すべての製品において高い顧客満足度を維持しています。

現場でのサービスが必要な技術的な問題が発生した場合、Sun は専門の経験豊富なフィールドエンジニアによるサポートを提供します。フィールドエンジニアは、技術サポートエンジニアと緊密に連携して、総合的なソリューションサポートを行います。使用するシステムでの現場サービスパッケージの申し込みについては、ご購入先にお問い合わせください。

Sun の技術サポートエンジニアにはさまざまな方法で問い合わせることができます。また、<http://www.sun.com/service/contacting/solution.html> にアクセスして、技術的な情報 (仕様、ファイル、よくある質問に対する回答など) を入手することもできます。

索引

A

ADS
設定
GUI, 35

D

DHCP、使用可能への切り替え, 13
DNS
使用可能への切り替え, 15
設定, 15
DNS サーバー、追加, 16

I

IP アドレス
エイリアス, 14
構成, 13

L

LDAP
構成
GUI, 52
使用可能への切り替え, 52
設定
GUI, 52
LUN
再構築, 76

削除, 76

追加, 73

LUN の再構築, 76

N

NDMP
NIC, 66
ゲートウェイアドレス, 66
設定, 65

Network Data Management Protocol、「NDMP」
を参照, 65

NFS

エクスポートの構成, 60
ホストの追加, 59

NIC ポート、位置, 12

NIS

サーバー, 54
設定, 53
ドメイン名, 53

NIS+

RPC パスワード, 56
設定, 54
ホームドメインサーバー, 56

NSSLDAP、「LDAP」を参照

R

RPC パスワード, 56

S

SMTP

サーバー, 69
設定, 69

SNMP

構成, 67
サーバーコミュニティー, 68

Sun の技術サポート, 83

T

TCP/IP

DHCP を使用した構成, 13
Web Administrator を使用した構成, 11

U

umask, 41

UNIX の設定

NFS エクスポートの構成, 60
NIS, 53
NIS+, 54
ネームサービスの検索順序, 57
ホストの追加, 59
マッピング, 62

UPS、監視の使用可能への切り替え, 70

W

Windows

セキュリティー
モデル, 33
ドメイン
使用可能への切り替え, 34
ワークグループ
使用可能への切り替え, 34

Windows の設定

マッピング, 62

え

エイリアス IP アドレス

概要, 14
追加, 14

エクスポート、構成, 60

エラー、電子メール通知, 70

か

監視、UPS, 70

き

技術サポート、問い合わせ, 83

く

クライアント, 2
グループマッピング, 62

け

警告、電子メール通知, 70

ゲートウェイアドレス
NDMP の設定, 66
構成, 14

検索パス、NIS+, 56

こ

更新

NIS でのグループ, 54
NIS でのホスト, 54
NIS でのユーザー, 54

構成

ADS
GUI, 35

LDAP
GUI, 52
NFS エクスポート, 60
SNMP, 67
Windows のセキュリティ, 33
エイリアス IP アドレス, 14
ゲートウェイアドレス, 14
ネットワークアダプタ, 13
プライマリ IP アドレス, 13
ホスト, 58
コミュニティー文字列, 68
コントローラ情報、表示, 79

さ

サーバー名, 11
削除
LUN, 76
ホットスペア, 78
サポートされるクライアント, 2

し

使用可能への切り替え
DHCP, 13
DNS, 15
LDAP
GUI, 52
NIS, 53
NIS+, 56
SNMP, 68
SNMP トラップ先, 69
UPS 監視, 71
動的 DNS, 16
ドメインのセキュリティ, 34
ワークグループのセキュリティ, 34
承認されたホスト, 58, 59
診断電子メール、送信, 81

す

スーパーユーザー, 58

せ

制限
名前
NetBIOS, 34
セグメント, 19
ドメイン, 34
ファイルボリューム, 19
セキュリティ, 2
Windows, 33
セキュリティ保護された RPC パスワード, 56
セグメント
名前の制限, 19
接続
ネットワーク, 2
設定
ADS
GUI, 35
DNS, 15
LDAP
GUI, 52
NDMP, 65
NFS エクスポート, 60
NIS, 53
NIS+, 54
Windows のセキュリティ, 33
サーバー名, 11
動的 DNS, 16
ネームサービスの検索順序, 57
ホスト, 58

そ

送信、診断電子メール, 81

つ

追加
DNS サーバー, 16
LUN, 73
NFS エクスポート, 61
ホスト, 58
ホットスペア, 77

通知

エラー, 69
警告, 69

て

電子メール通知
受信者のリスト, 70
診断、送信, 81
設定, 69

と

動的 DNS、設定, 15, 16
ドメイン
セキュリティ, 34
ドメインネームシステム、「DNS」を参照, 15
トラップ先, 68

な

名前
NetBIOS の制限, 34
セグメント, 19
ドメイン, 34
ファイルボリューム, 19

ね

ネームサービス
DNS, 15, 57
NIS, 53, 57
NIS+, 54, 57
ローカル, 57
ネームサービスの検索順序, 51, 57
ネットマスク、構成, 13
ネットワーク
接続, 2
ネットワークアダプタ
位置, 12
構成, 13

ネットワーク管理プロトコル、「SNMP」を参照
, 67

ネットワーク情報サービス、「NIS」を参照, 53
ネットワーク情報サービスプラス、「NIS+」を参
照, 54

ひ

表示、コントローラ情報, 79

ふ

ファイルボリューム
名前の制限, 19
ブロードキャストアドレス, 13
プロトコル, 1

ほ

ホスト
承認, 59
設定, 58
追加, 58
ファイルアクセス, 61
ホットスペア
削除, 78
追加, 77

ま

マッピング, 62

ゆ

ユーザーマッピング, 62

れ

連絡先情報、SNMP 管理者, 68

わ

ワークグループ

セキュリティー

使用可能への切り替え, 34

